

高齢期のための 住まいとまち

大原一興（横浜国立大学）

‡:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

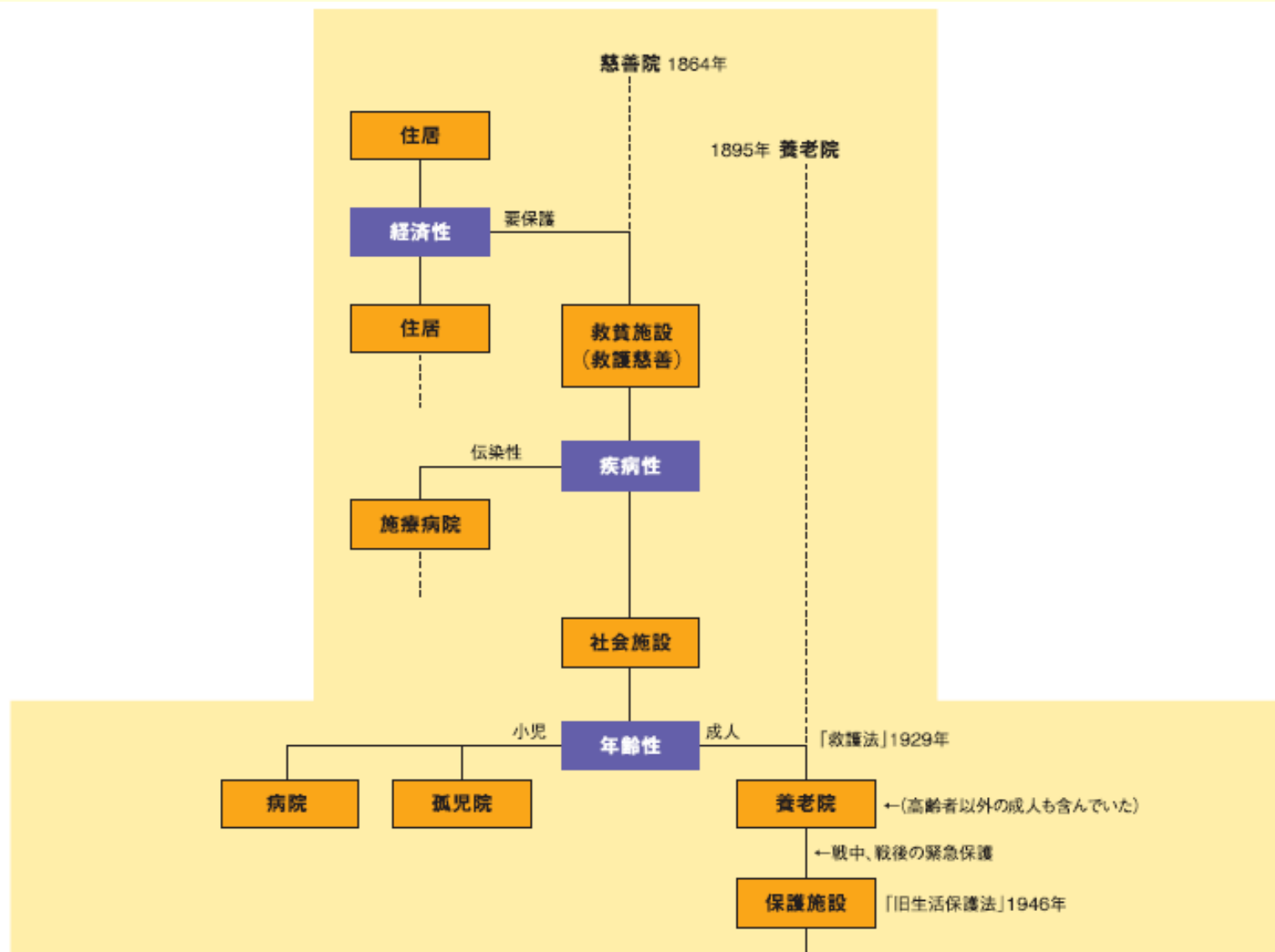
高齢者居住施設のこれまで

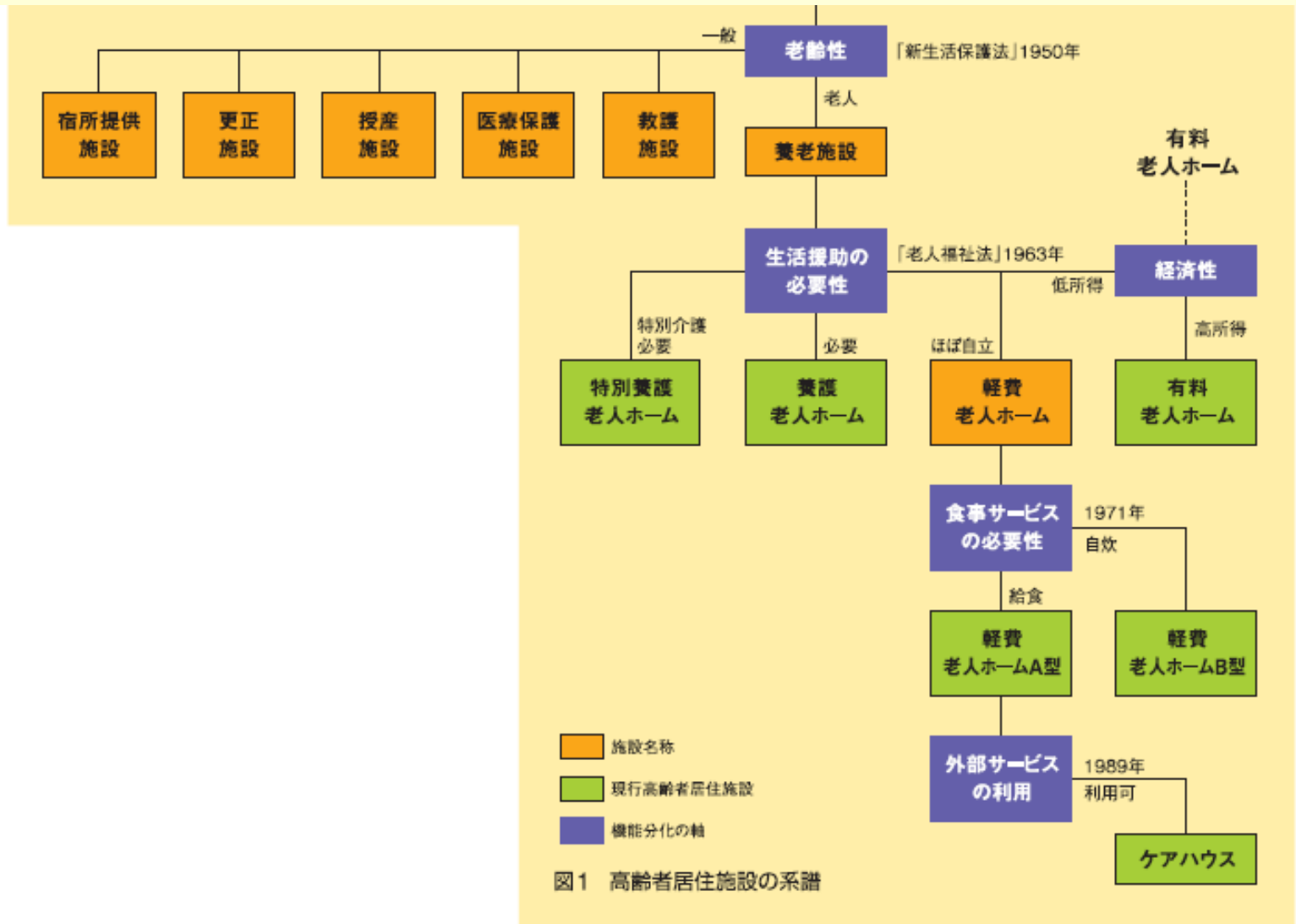
近代以前から近代の確立 住宅から施設へ

一般住宅・住居(総合的存在)からの分岐・派生としての社会施設

「施設」の誕生 ビルディングタイプ別計画論の確立

近代主義:機能分化の系譜





† 図出典：大原「変化する高齢者の住空間」、pp.2-5
 TOTO通信2000・vol3、TOTO(株)、アキタ・デザイン・カン

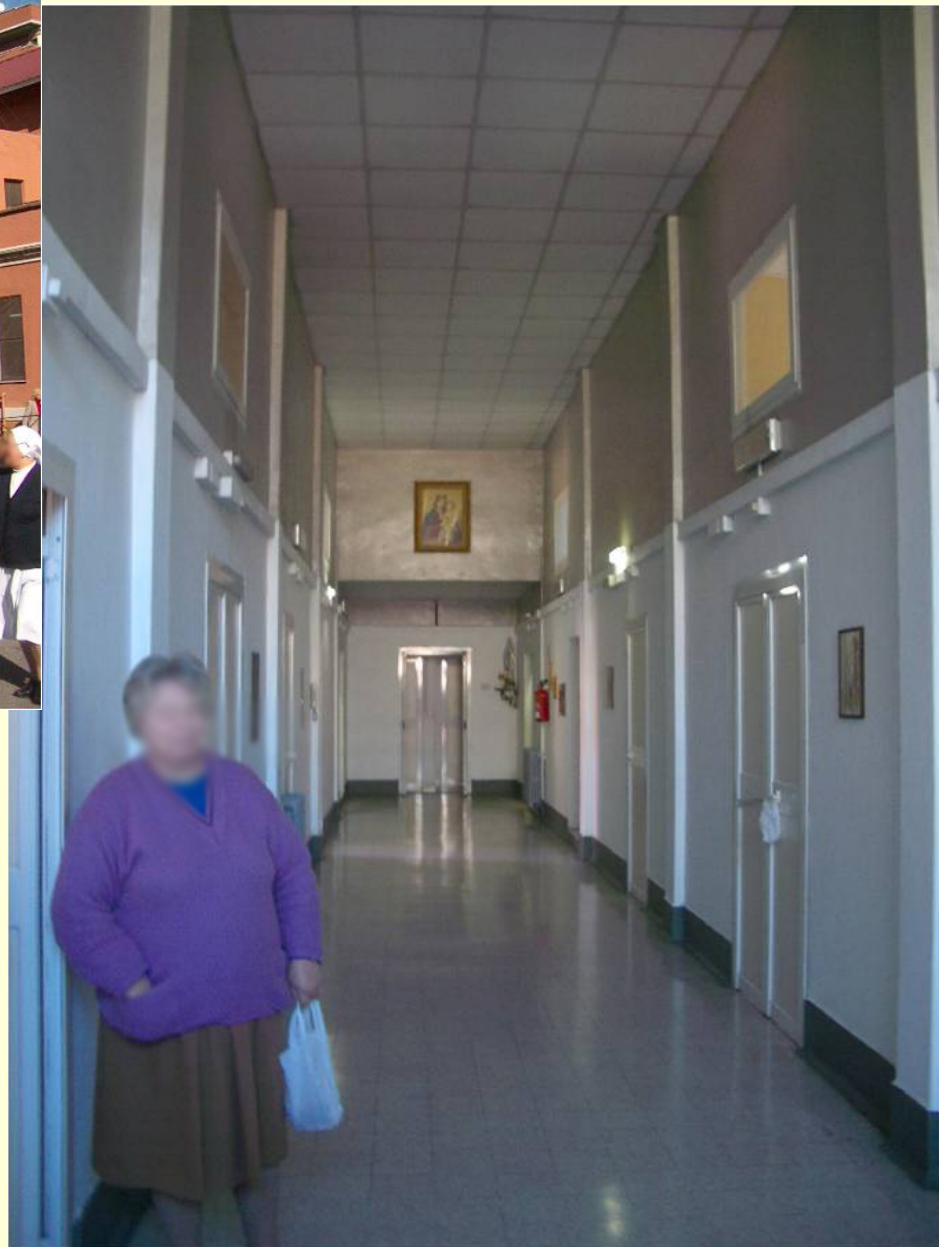


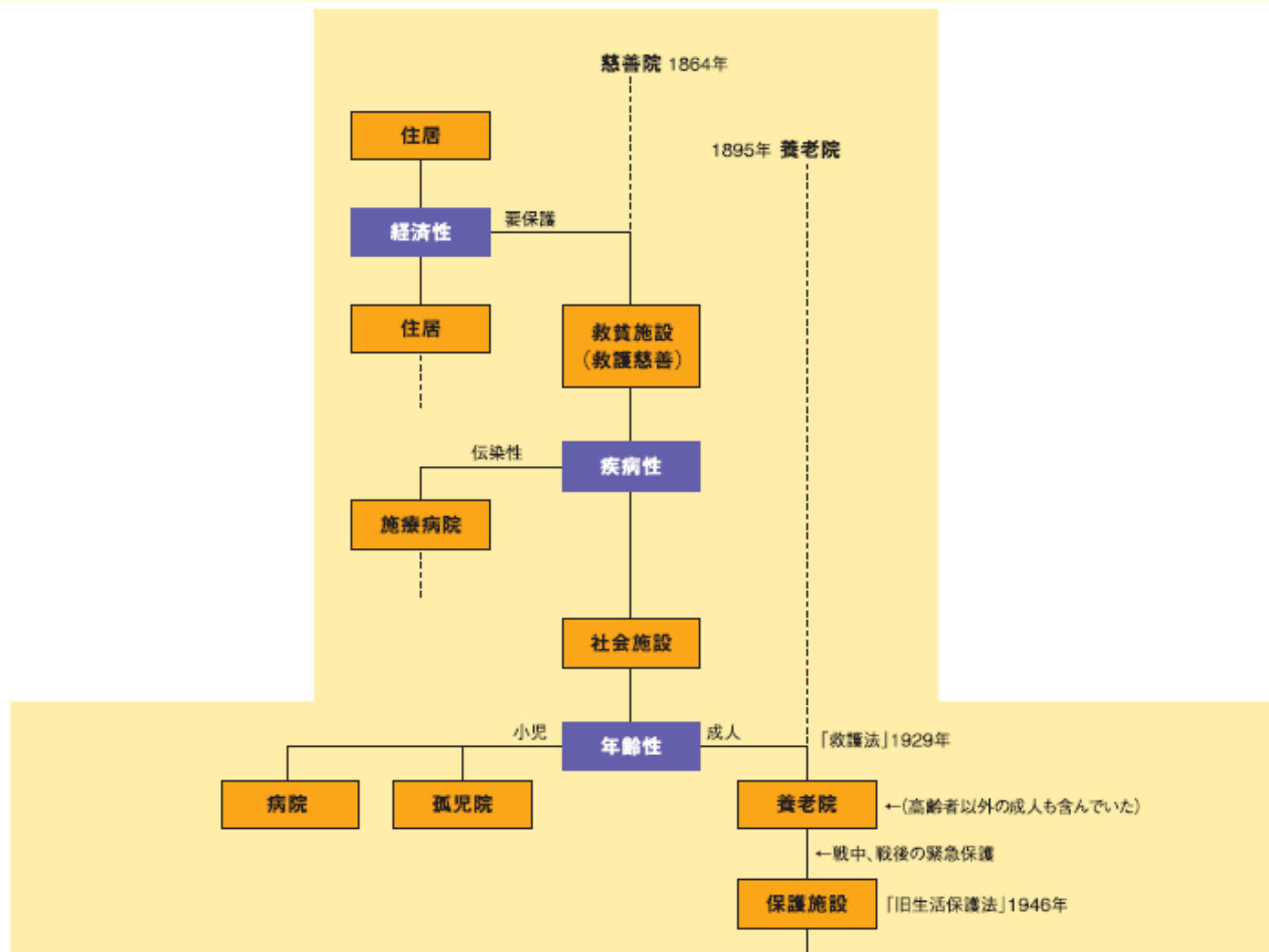
東京市養育院板橋本院敷地および建物略図 (昭和7年)

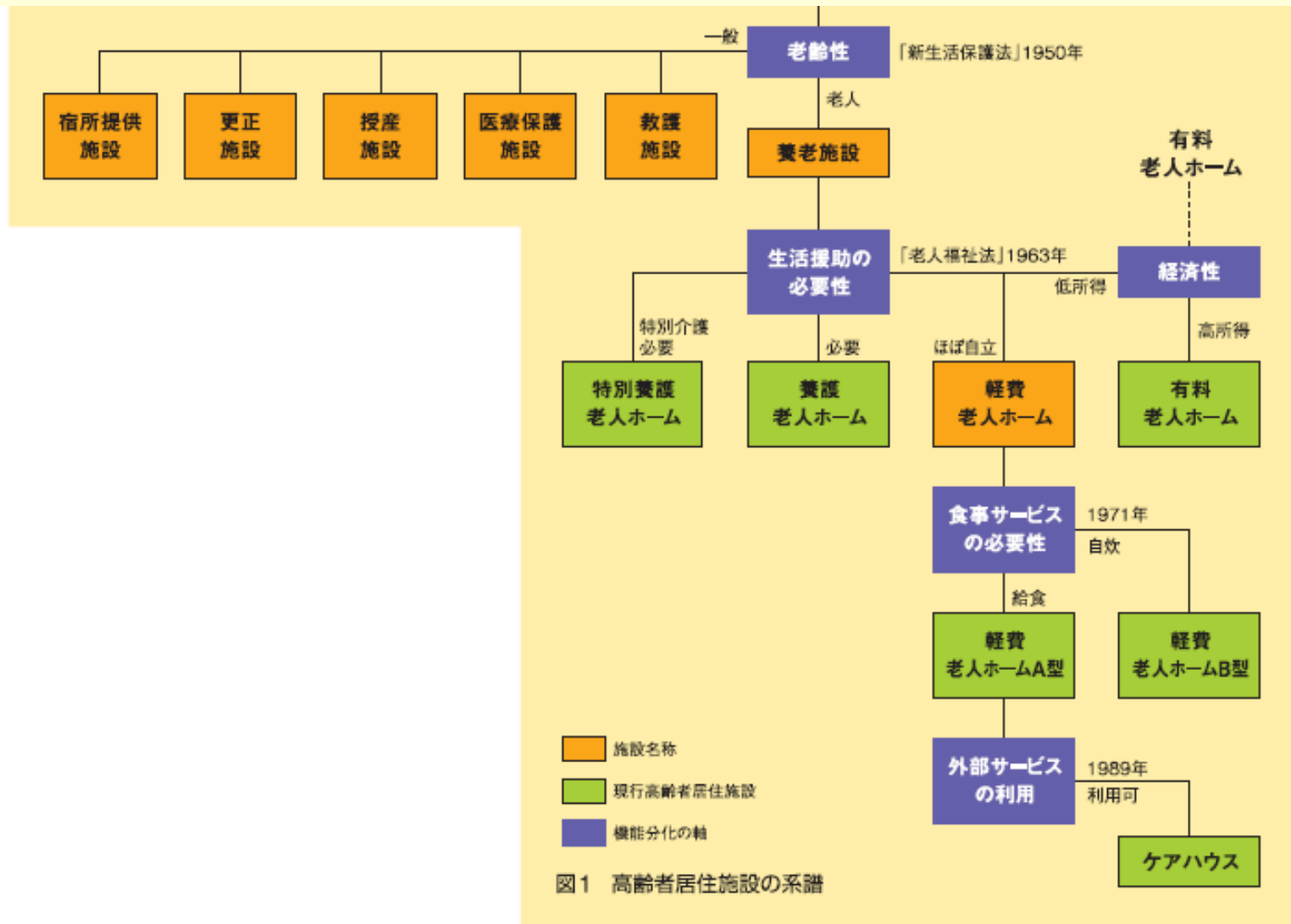
明治5年に設立された東京都養育院では、
 昭和8年に老人ホームが誕生



慈善住宅(ホームレス
の人のための住居)、
今は高齢者住宅
ローマ市







福祉施設の起源

- 聖徳太子による四天王寺 推古天皇元年（593年）
「四箇院の制」の採用（『四天王寺縁起』）
 - “敬田院” : 仏法修行の道場
 - “施薬院” : 病者に薬を施す
 - “療病院” : 病気の者を収容し、病気を癒す
 - “悲田院” : 身寄りのない者や年老いた者を収容する

近代主義（機能分化・専門分化の思想）により形成された「高齢者施設」

- 「様々な機能が外に出て行った後、取り残された存在としての老人施設」(在塚礼子)
- 機能対応型施設配置
 - 「一対一主義」
 - 「一機能一殿堂」(鈴木博之)
- 機能主義的認識 トータルな包み込み
 専門施設 ←→ 住宅

高齢者施設の世界 —とり残された「近代」—

- 公共・制度主導の施設
- 新たな施設：新たな分類収容
- 施設のタイプ：専門性の先鋭化

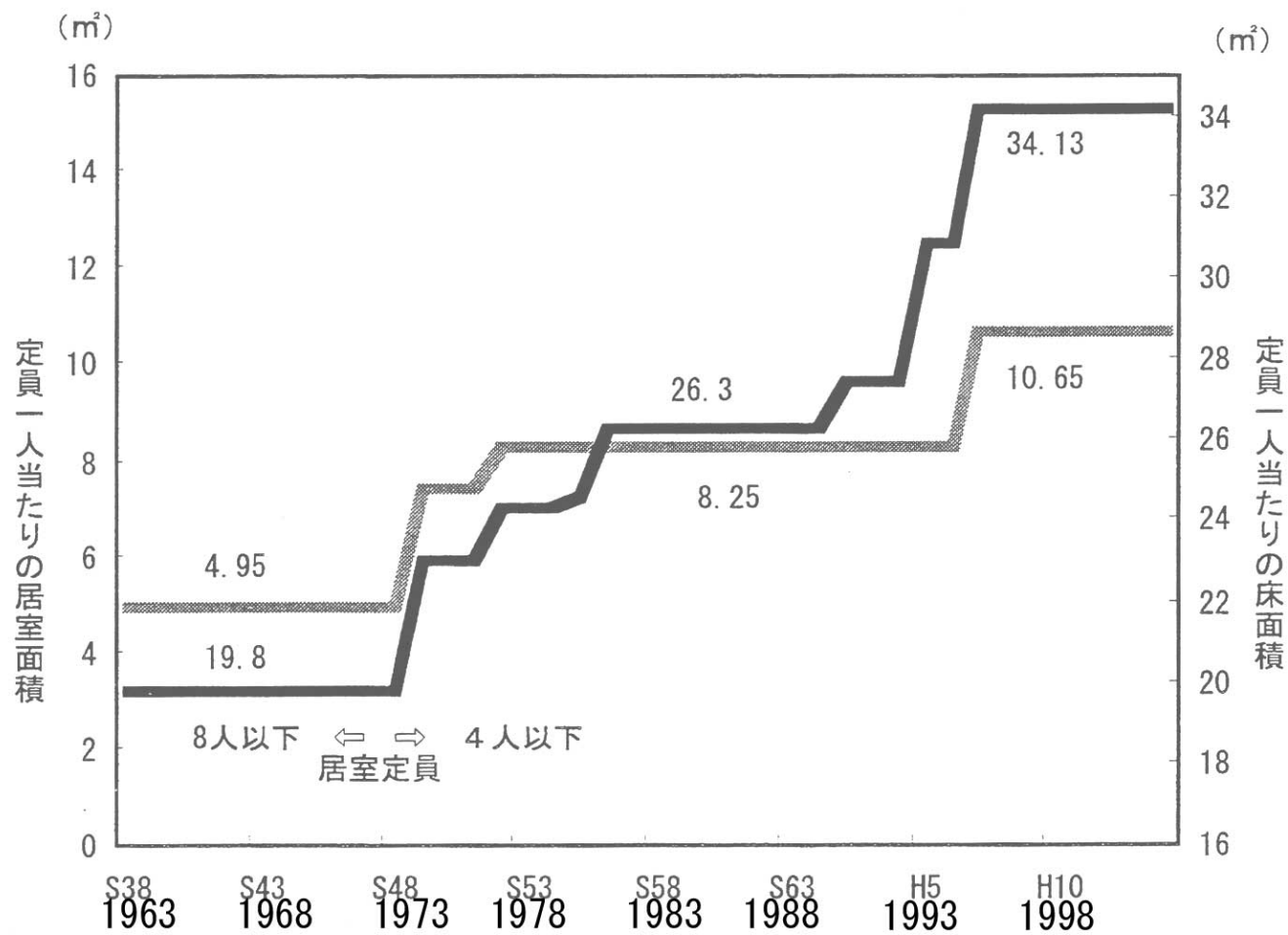
—脱「近代」へ向けて—

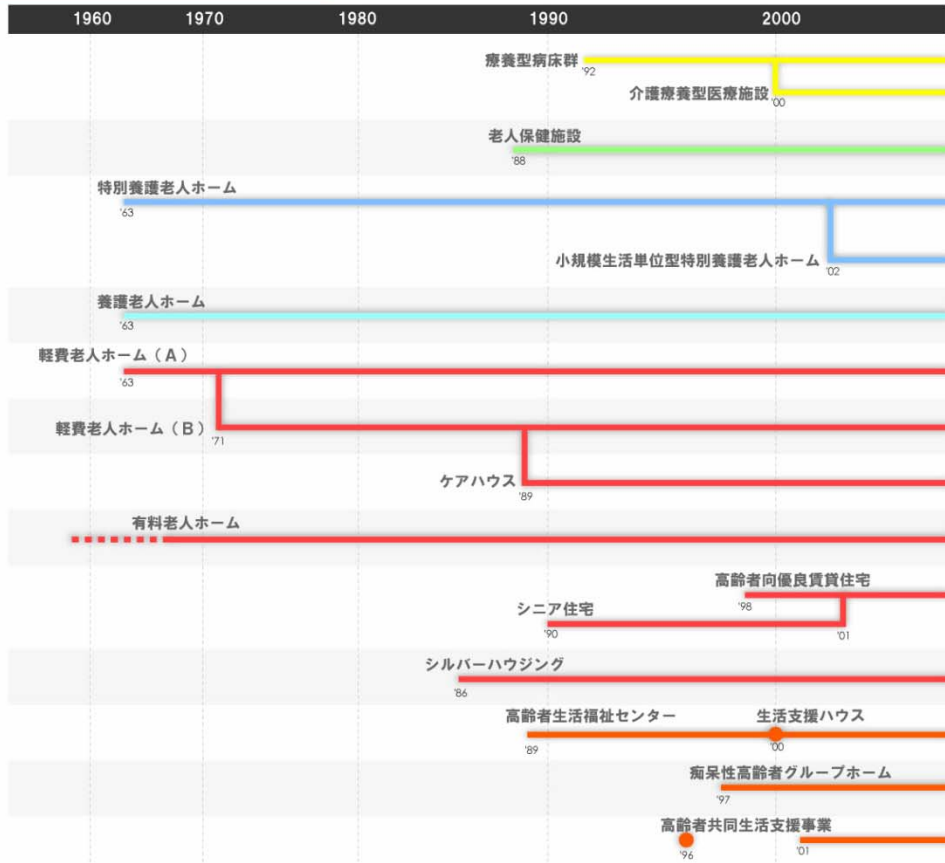
～施設の住宅化と 住宅の施設化～ の時代

- 施設空間の住宅化・住居化： 居住環境の重視
- 大部屋から個室へ
- より親和性のある小さい社会環境へ
- 連続した多機能性

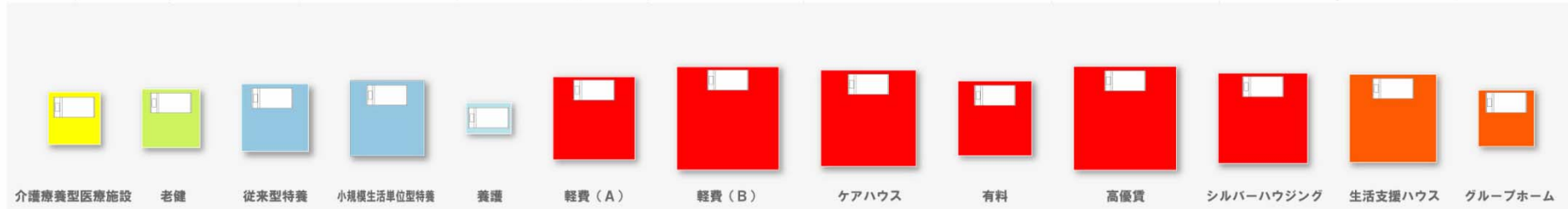
住宅化する施設空間

the standard area of room in nursing home for subsidy





施設種別	定員数・整備数	個人空間 (名称・面積・定員)		
		名称	面積	定員
介護療養型医療施設	132,492 床・3,877 施設 (2004.5)	病室	6.4㎡/床～	4人以下
老人保健施設	246,139 人・3,100 施設 (2004.5)	療養室	8.0㎡/人～	4人以下
従来型特別養護老人ホーム	344,311 人・5,226 施設 (2004.5)	居室	10.65㎡/人～	4人以下
小規模生活単位型特別養護老人ホーム		居室	13.2㎡/人～	原則個室
養護老人ホーム	66,927 人・958 施設 (2003.3)	居室	3.3㎡/人～+収納設備	2人以下 (1973年個室化指導)
軽費老人ホーム (A)	14,133 人・239 施設 (2003.3)	居室	16.5㎡/人～	個室
軽費老人ホーム (B)	1,651 人・35 施設 (2003.3)	居室	24.8㎡/人～	個室
ケアハウス	63,037 人・1,607 施設 (2003.3)	住戸	21.6㎡/人～(個室) 31.9㎡～(夫婦用)	単身または夫婦
有料老人ホーム	46,561 人・662 施設 (2003.7)	居室・住戸	一般居室・個室 介護居室: (13㎡/人～)	個室
高齢者向優良賃貸住宅	23,203 戸 (2004.5)	住戸	25㎡/戸～ 共同利用型18㎡/戸～	単身または夫婦
シルバーハウジング	18,984 戸 (2004.3)	住戸	19㎡/戸～	単身または夫婦
生活支援ハウス	1,800 施設 (2004予定)	居室	18㎡/人～	原則個室
痴呆性高齢者グループホーム	43,446 床・5,003 ヶ所 (2004.5)	居室	7.43㎡/人～	原則個室 (2人室可)
共同生活支援事業	30 ヶ所 (2001)			



大食堂

集団処遇



小規模グループ

個別ケア



多床室

収容施設



個室

生活の場



住宅への回帰

- 住宅のヒューマン・スケール
- なじみやすさ 使い慣れた空間



こもれびの家



こもれび玄関



居室の入り口



廊下と居室の関係

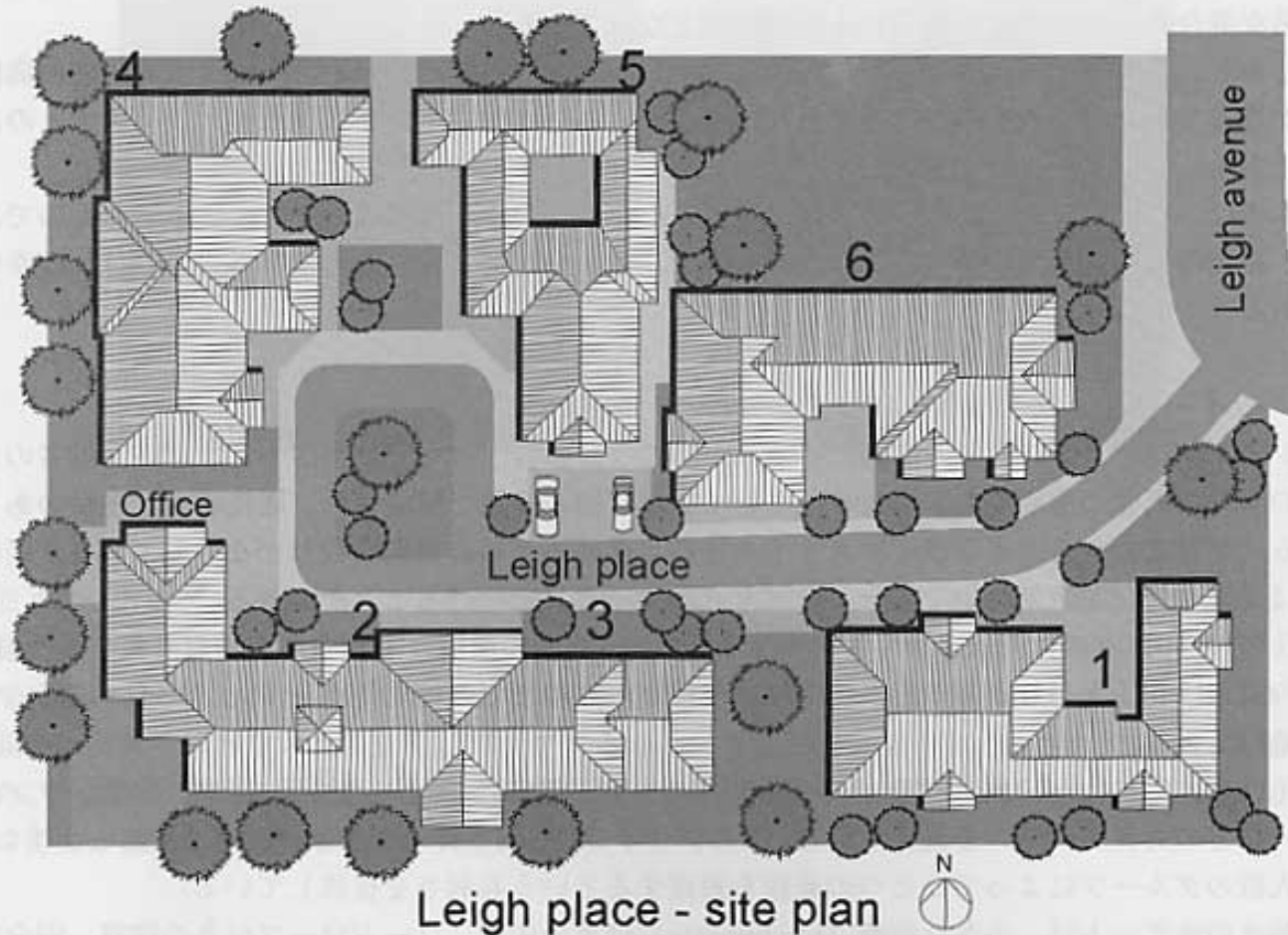


まりやの家





オーストラリアの新築の例 レイプレース



Leigh place - site plan

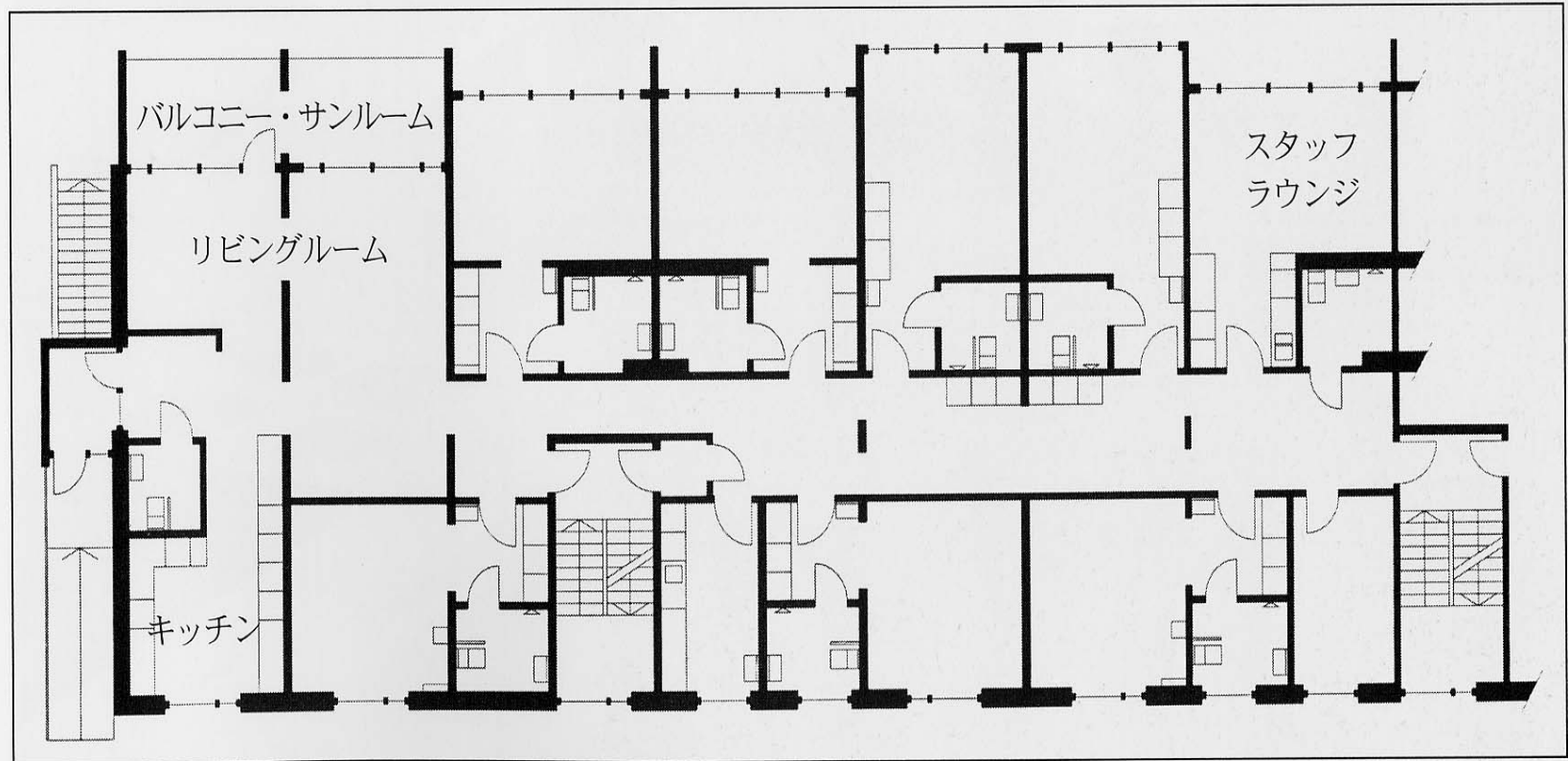


住宅地の形成



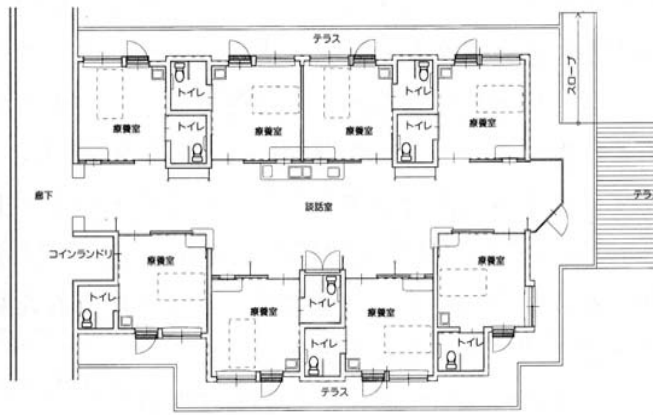
住宅街の中に

公営住宅の改築

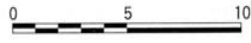




通常の公営住宅の1階部分



LIVING UNIT PLAN



「住宅」的なものを求めて

- 住宅の雰囲気への追求
- 「住宅」的→「和風」への短絡的理解
- アナクロニズムへの傾斜

囲炉裏は万能か？



思い出の品

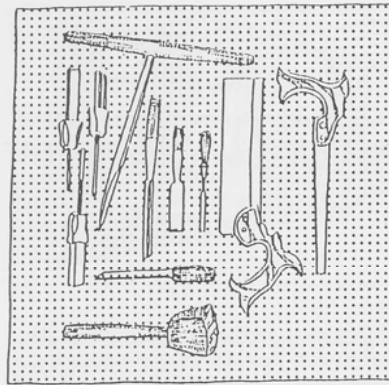


Figure 3.11
This case along a busy corridor displays historic farm tools of great personal significance to residents of the surrounding farming community.

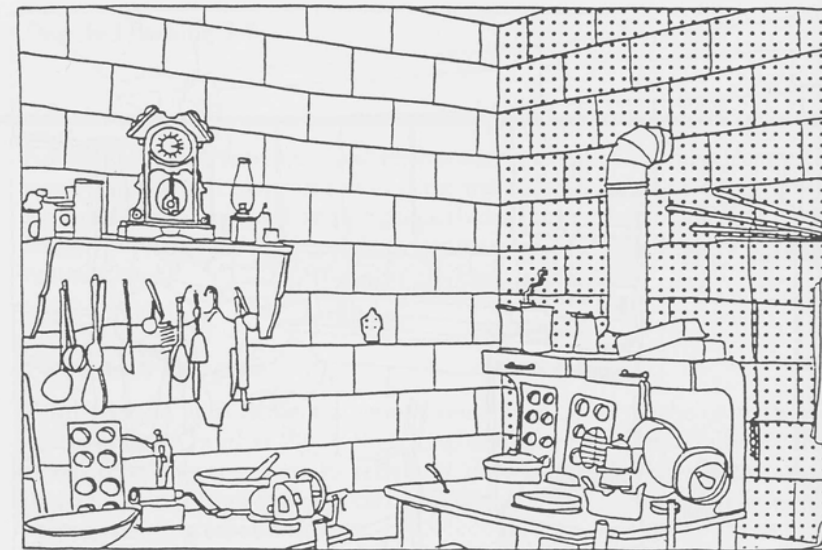


Figure 3.12
This arrangement of a turn-of-the-century kitchen is a favored area within a “museum” created in a long-term facility.

著作権処理の都合で、

この場所に挿入されていた画像は

削除されました。



Figure 3.13
A variety of images—from family pictures, both recent and older, to the picture of a favorite cat—can trigger reminiscence. The media are not limited to still photography: movies and video displays can be used as well. (adapted from Valins 1988)

Cohenらによる紹介

Cohen, Uriel, and Gerald D. Weisman. Holding On to Home:

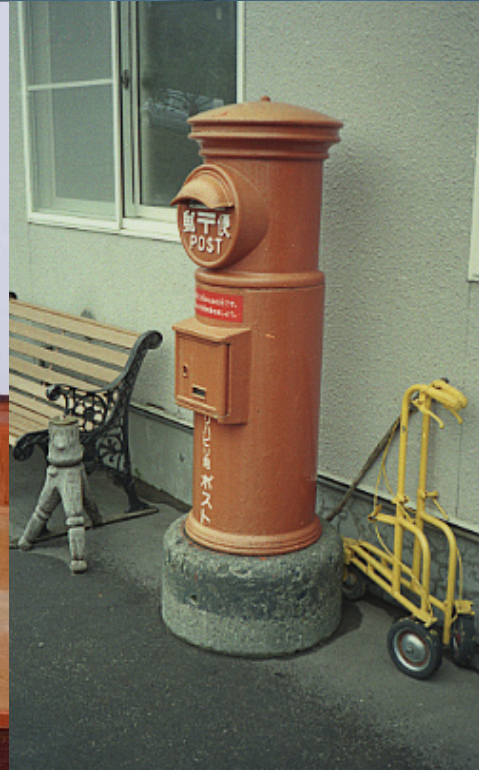
Designing Environments for People with Dementia. p.60.

© 1991 The Johns Hopkins University Press.

Reprinted with permission of The Johns Hopkins University Press.



高齢者は昔のものが好き、
懐かしいもの幻想→虚構の昔



メアンドンホ



昭和の
なつかしい舎





ダヒ
ーシクタ





自分の居室を認識しやすくする工夫？

住宅として大事なものは何？

- 誰のための住まい？
- わかりやすさ
or
尊 厳

ふつうの暮らしの追求 →住まいの原型への遡及

- 「普通的生活」の不可解 虚像と記憶
- 「住宅」のあり方を問う いまこそ住宅規範の再考
- 住むことの尊厳・権利を保障する環境として
- 生活展開を可能とする空間の広さ・包容力

「住宅」＝「生活」の追求

- 住宅(生活)を求める本質は住宅(生活)のもつ「総合性」にある
- 「住宅」概念のもつ総合的な環境への再編、「力」のある住宅
- 新たな住宅規範の構築(再認識)の必要性
: 生活視点

高齢者施設の課題 : 近代を超えること

- 機能対応型施設から住宅へ
機能主義的認識 → トータルな包み込み
施設 → いえ・まち

ビルディングタイプを超えること

脱構築 → (脱施設?) → 超施設

「場」の考え方「建築地理学」(長澤泰)

全体をとりまとめるソフトの重要性(ex. 地域通貨)

専門技術より総合化

- 単なる個人の身体動作や生活技術の回復ではなく、全人的な回復(リハビリテーション)を求める
- 本人の主体性を引き出すイネーブラー、ファシリテーター、触媒、二人称的な役割

生活ということの意味

～ 総合・参画・共立～

- 機能別配置ではなく、総合的・流動的な計画・プロセス ノンフォーマルなシステム 地域性
- ユーザー主体の参画による空間づくり 与えるものではなく共に作りあげること
- 小さな共同体の試行における可能性 自立だけではなく共立・共棲の生活環境づくり

総合性

- 総合的・流動的なシステム
宅老所から学ぶ：小規模多機能

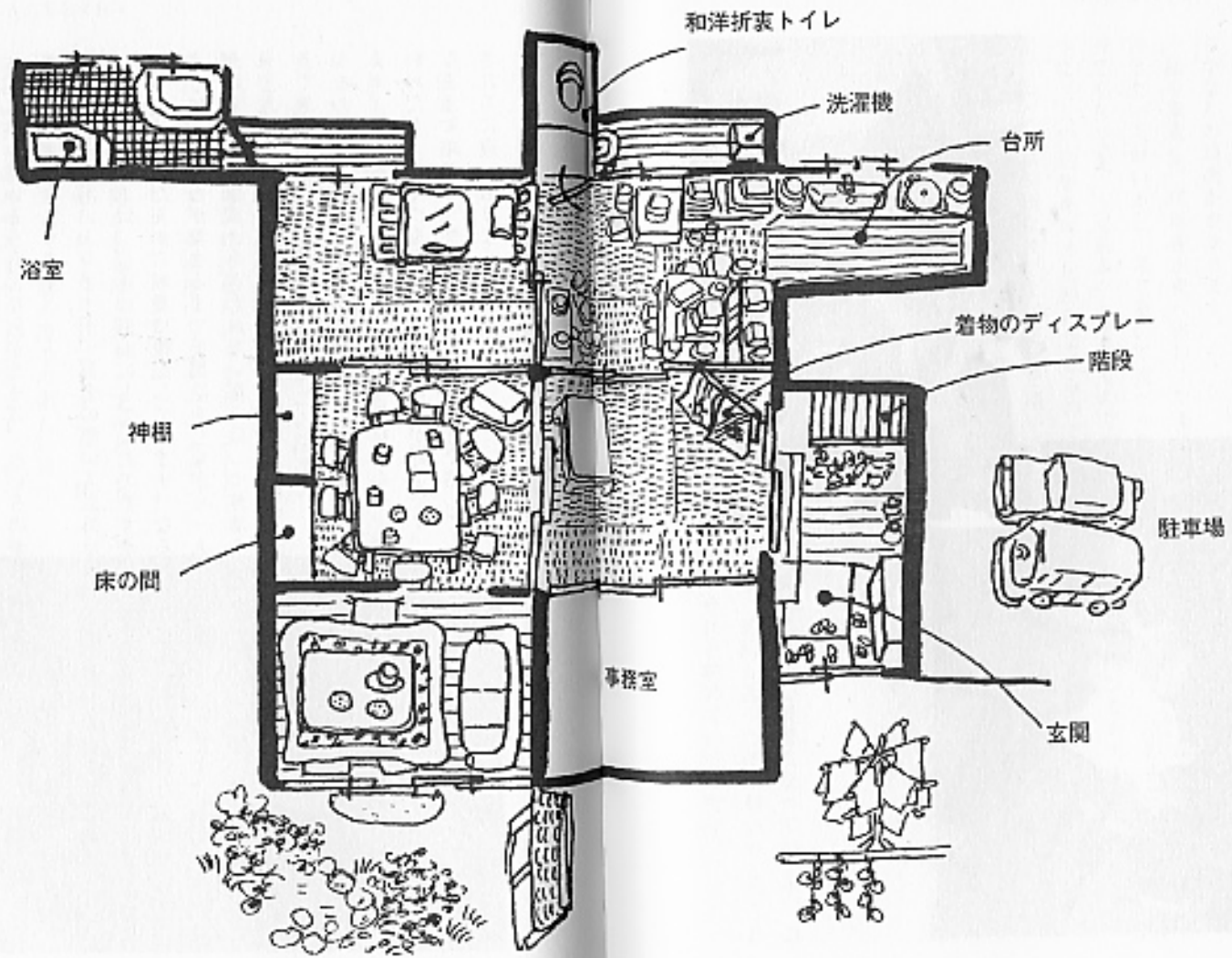
各種サービスを補完しながら積み上げる
のではなく、

新たな地域ニーズの発掘に寄与する

宅老所から学ぶ

- 託老所あんき（愛媛県）
古民家改造型デイサービスから
- 宅老所よりあい（福岡県）
- 地域に溶け込むケア拠点の発展
通って（デイサービス）→泊まって
（ショートステイ）→住む（グループホーム）













宿泊用の家 職員の詰め所になる居間



店舗にしたいという倉庫

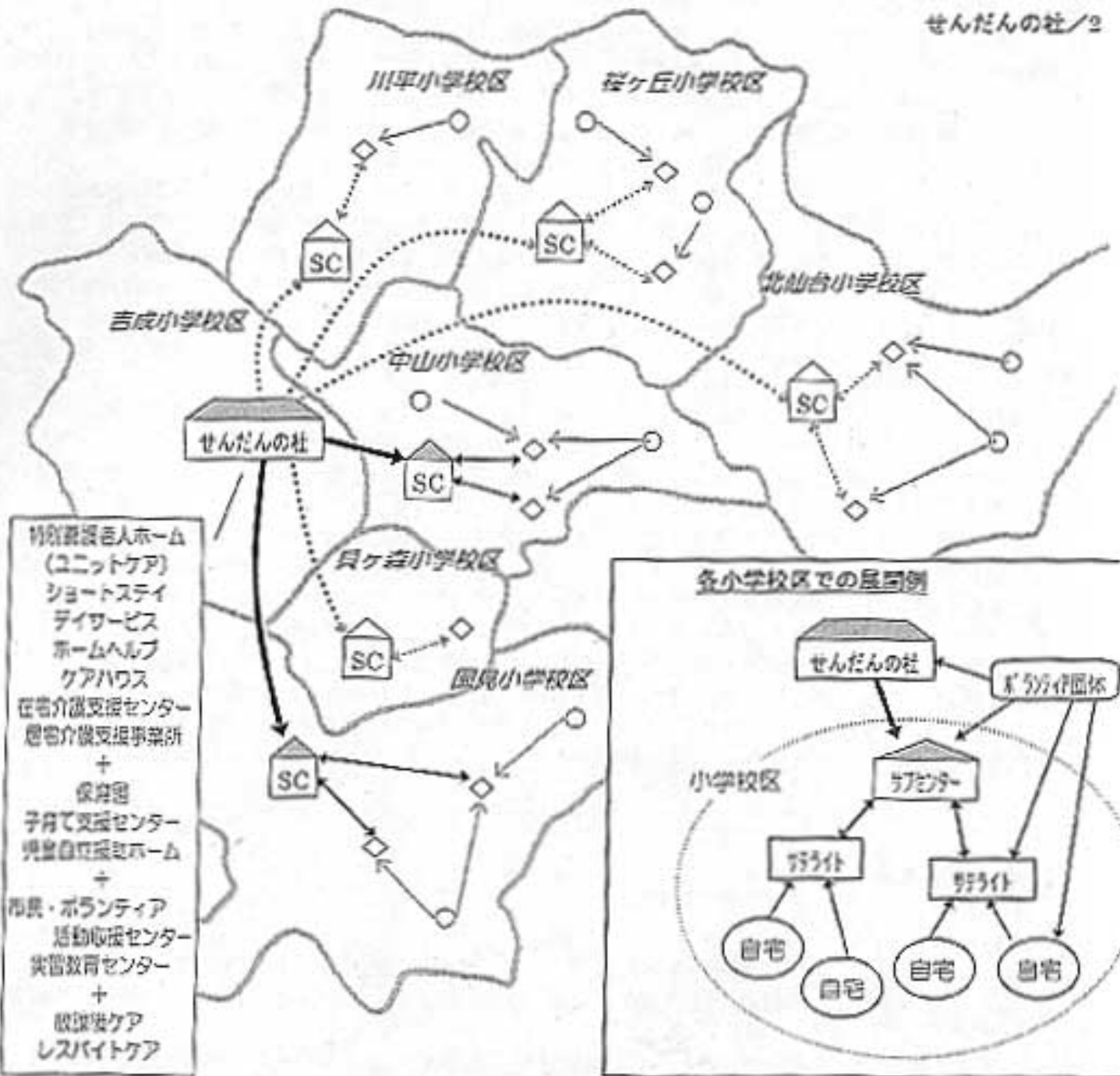


アグホーム
なんまい
あんき



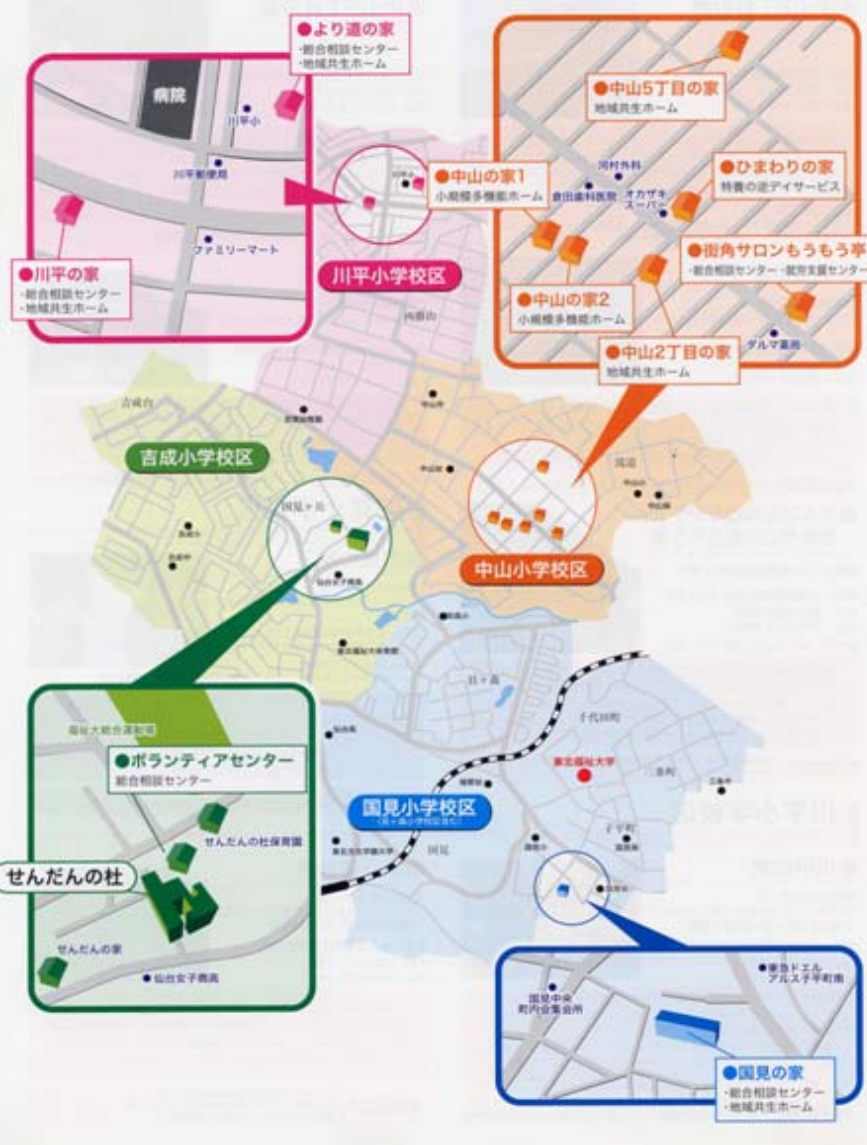
地域分散

- せんだんの杜（宮城県）
特別養護老人ホームが母体
- 地域サテライトケア
地域住民の巻き込み



地域サテライトケア

小学校区をねらって



中山小学校区

●中山2丁目の家

住所：仙台市青葉区中山2丁目7-31
Tel：022-303-5170
Fax：022-303-5178



小学生までの子どもを中心として、子ども1人ひとりの興味や関心を大切に、子どもと地域の方々と関係づくりを応援しつつ、障がいをもった子どもであっても、地域で互いに支え合ってゆけるような環境を地域の方々とともにつくっていきます。

主なサービス
障がい児放課後ケアサービス(児童デイサービス) ● 支援費ホームヘルプサービス
レスパイトケアサービス(仙台市家族支援推進事業) ● 総合相談

●中山の家 1

小規模多機能ホーム
(デイサービス+お泊り+居住+ホームヘルプ)
住所：仙台市青葉区中山4丁目5-10
Tel：022-277-0712
Fax：022-277-0719



長い間、ここに住み慣れたような雰囲気の一軒家を拠点として、利用者ご本人の生活を十分支えられるように、介護保険サービスや自主サービス等により柔軟に対応いたしております。
こじんまりとした雰囲気の中、ゆったりとしたひとときを過ごしませんか。

主なサービス ● デイサービス(定員10名)営業日：月～金 ● 自主事業(居住・ナイトケア)

●せんだんの杜なかやま街角サロンもうもう亭

街角サロン&総合相談センター
住所：仙台市青葉区中山1丁目18-3
Tel：022-303-3805
Fax：022-303-3803
営業日：月～日/9：00～18：00



中山商店街沿いに面している「街角サロンもうもう亭」は、地域住民の方々が気軽に立ち寄れ、誰もが楽しく語らう地域に根ざしたサロンを併せ持つ総合相談センターです。生活支援が必要になっても、安心して住み慣れた地域で暮らすことができるように、お一人一人の生活を大切にしながら相談のお手伝いをしています。

主なサービス ● 総合相談センター(介護保険、育児相談、障がい児・者、ボランティア)街角サロン

川平小学校区

●川平の家

地域共生型ホーム
(デイサービス+お泊り+ホームヘルプ+託児+障がい児・者)総合相談
住所：仙台市青葉区川平4丁目23-27
Tel：022-303-2506
Fax：022-303-2507



仙台市の北東部にある川平団地の中の「川平の家」。ここでは「共生」をキーワードに子どももお年寄りも障がいをもっている、だれもが気軽に集える場所です。
多世代交流の中から生まれる笑い、涙、そして生活それぞれを大切にしながら地域の中でそのひとらしく暮らしていることをお手伝いしていればと考えています。

主なサービス ● デイサービス(定員10名)営業日：月～日 ● 総合相談(介護保険・育児相談・ボランティア等) ● 自主事業(ナイトケア・託児・学童保育)

●中山5丁目の家

住所：仙台市青葉区中山5丁目5-18
Tel：022-279-2750
Fax：022-279-2751



高齢者も障がいの者も子ども、出会い、集い、共に生活できる地域をつくるために、近隣の方と一緒に支えあいながら考えていきます。
中学生・高校生の放課後ケアサービスを中心に、高齢者の生活に関すること、育児に関すること、また、託児や学童保育について、様々な相談に対応いたします。

主なサービス ● 障がい児放課後ケアサービス ● 総合相談

●中山の家 2

小規模多機能ホーム
(デイサービス+お泊り+居住+ホームヘルプ)
住所：仙台市青葉区中山4丁目2-26
Tel：022-277-0712
Fax：022-277-0719



洋風でモダンな作りの一軒家を拠点に、利用者ご本人の生活を支えられるよう介護保険サービスや自主サービス等により柔軟に対応いたしております。
日々、中山にお住まいの方々がいらしています。お仲間づくりをいらしてみませんか。

主なサービス ● デイサービス(定員9名)営業日：月～日 ● 自主事業(居住・ナイトケア)

国見小学校区

●国見の家

地域共生型ホーム
(デイサービス+お泊り+ホームヘルプ+託児)総合相談
住所：仙台市青葉区国見2丁目5-35
東北福祉大学八幡寮101～102
Tel：022-727-8830
Fax：022-727-8988 住所：仙台市青葉区国見2丁目5-35



仙台市民に馴染みの深い、大崎八幡神社にほど近い東北福祉大学八幡寮内にある「国見の家」は、子どもたちの元気な声と、お年寄りの楽しい歌聲に溢れる、多世代交流型の地域共生型ホームです。
親から子へ、子から孫へと受け継がれていく「生活の知恵」や「生き方」を大事にしていきたいと考えております。

主なサービス ● デイサービス(定員10名)営業日：月～金 ● 託児 営業日：月～土(土日除く) ● 総合相談(介護保険・育児相談) ● 自主事業(ナイトケア・ホームヘルプ)

●より道の家

地域共生型ホーム
(デイサービス+お泊り+居住+ホームヘルプ+託児+障がい児・者)+総合相談
住所：仙台市青葉区川平3丁目31-30
Tel：022-277-7881
Fax：022-277-7881



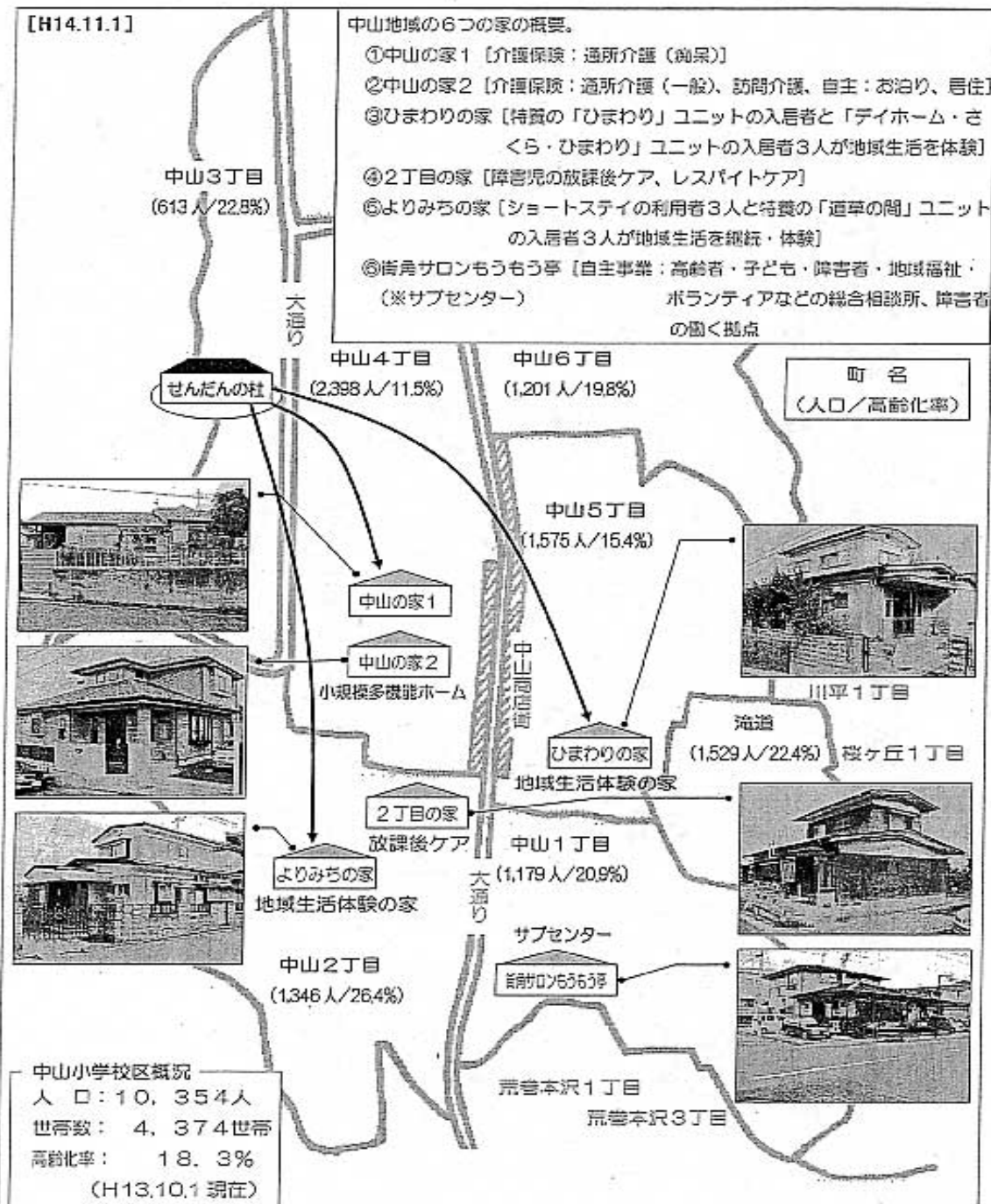
川平小学校にほど近い、「川平より道の家」。川平の家と同じ地域共生型ホームとして、地域の皆様が気軽に立ち寄り、集える場所として名付きました。顔なじみの職員が、デイサービス、ホームヘルプ、お泊まりと継続的にお手伝いさせていただきます。

主なサービス ● デイサービス(定員10名)営業日：月～金 ● 総合相談(介護保険・育児相談・ボランティア等) ● 自主事業(ナイトケア・託児・学童保育)

せんだんの社 / 中山小学校区での展開図

[H14.11.1]

- 中山地域の6つの家の概要。
- ①中山の家1【介護保険：通所介護（簡易）】
 - ②中山の家2【介護保険：通所介護（一般）、訪問介護、自主：お泊り、居住】
 - ③ひまわりの家【特養の「ひまわり」ユニットの入居者と「デイホーム・さくら・ひまわり」ユニットの入居者3人が地域生活を体験】
 - ④2丁目の家【障害児の放課後ケア、レスパイトケア】
 - ⑤よりみちの家【ショートステイの利用者3人と特養の「道草の間」ユニットの入居者3人が地域生活を継続・体験】
 - ⑥街角サロンもうもう亭【自主事業：高齢者・子ども・障害者・地域福祉・（※サブセンター） ボランティアなどの総合相談所、障害者の働く拠点】



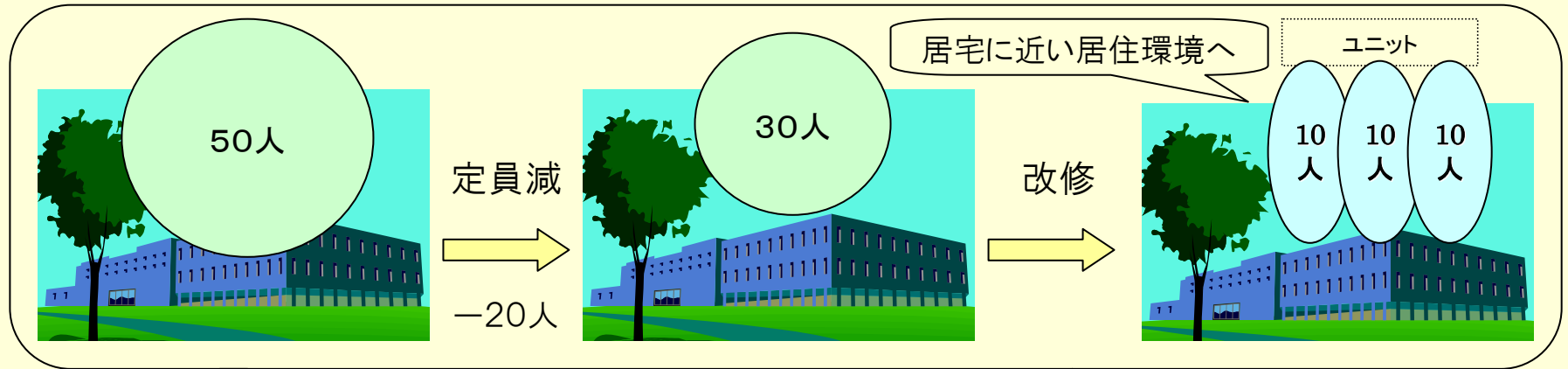
中山地域探検隊
学習会活動
助け合い調査
町内会との連携
見学会開催
会食会協力
地区社会福祉協
議会との協働





サテライト型居住施設について

(特養のサテライト展開)



20人

密接連携

本体施設との密接な関係を考慮し、規制緩和

- 廊下幅 → 既存施設の改修利用を可能に (片廊下 1.5m → 1.2m)
- 医務室・調理室 → 本体施設の利用を条件に簡易な設備で足りることとする。

- 管理者(施設長) → 本体施設と兼務可
- 生活相談員 → 併設事業所との兼務可
- 看護職員 → 非常勤でも可

併設

+
(定員20人以下)
建物貸与可

サテライト居住型施設
個室・ユニットケア

ユニット

10人 10人

ユニット

10人 10人

小規模多機能型居宅介護のイメージ

基本的な考え方:「**通い**」を中心として、要介護者の様態や希望に応じて、**随時「訪問」**や「**泊まり**」を組み合わせてサービスを提供することで、在宅での生活継続を支援する。

利用者の自宅



様態や希望により、「訪問」



小規模多機能型居宅介護事業所

「訪問」

人員配置は固定にせず、柔軟な業務遂行を可能に。

「通い」を中心とした利用

様態や希望により、「泊まり」

併設事業所で「居住」

+ (併設)

「居住」

- グループホーム
- 小規模な介護専用型の特定施設
- 小規模介護老人福祉施設(サテライト特養等)
- 有床診療所 等

在宅生活の支援

地域に開かれた透明な運営
サービス水準・職員の資質の確保

管理者等の研修
外部評価・情報開示

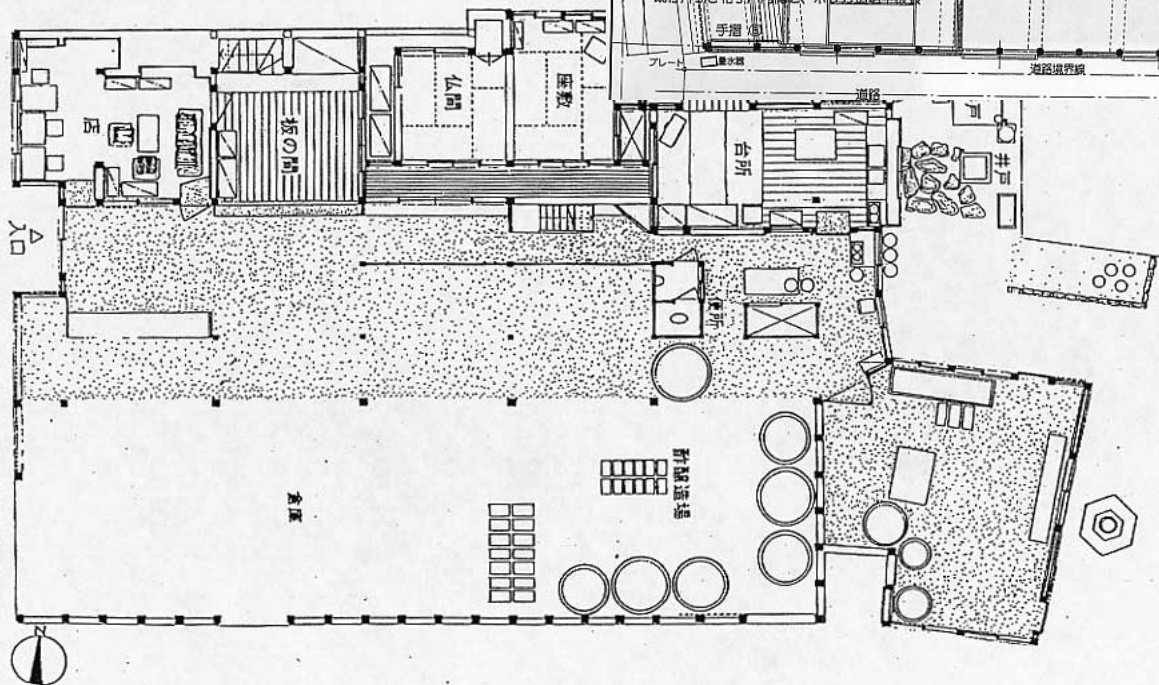
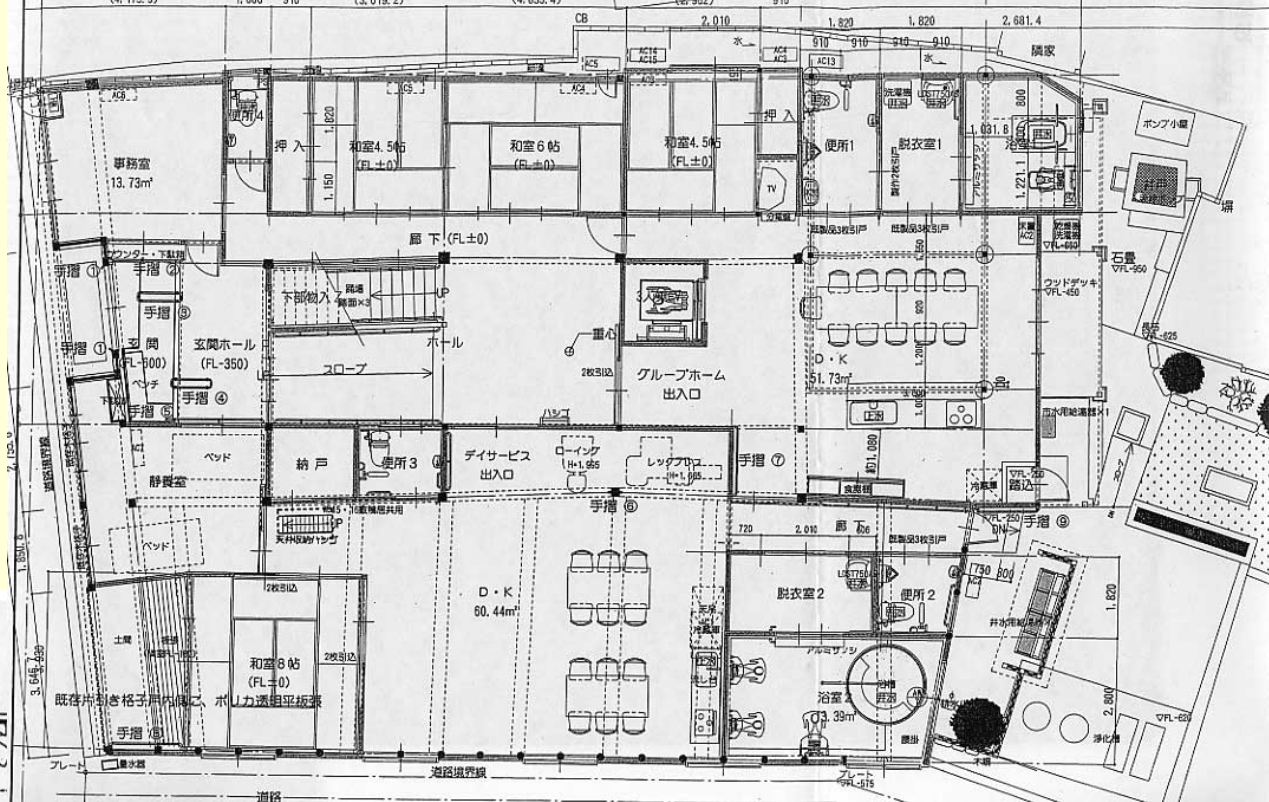
地域の他のケア資源や
地域包括支援センターとの連携

- 「通い」の利用者15名程度
- 1事業所の登録者は25名程度
- 「泊まり」は「通い」の利用者に限定
- 「泊まり」の利用は5名までを基本
- どのサービスを利用して、なじみの職員によるサービスが受けられる。

- 小規模多機能型居宅介護事業所と連続的、一体的にサービス提供
- 職員の兼務を可能に。



小規模多機能施設の例 さくらホーム 鞆の浦



岩谷氏宅平面図

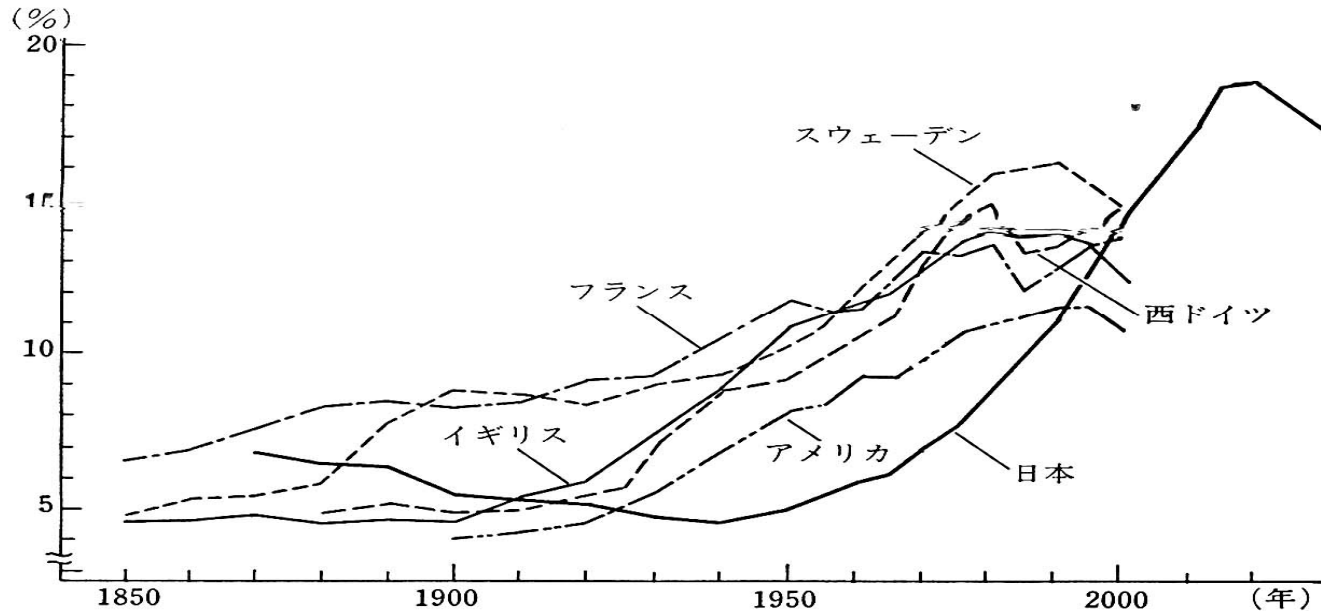
✦ さくらホーム 鞆の浦



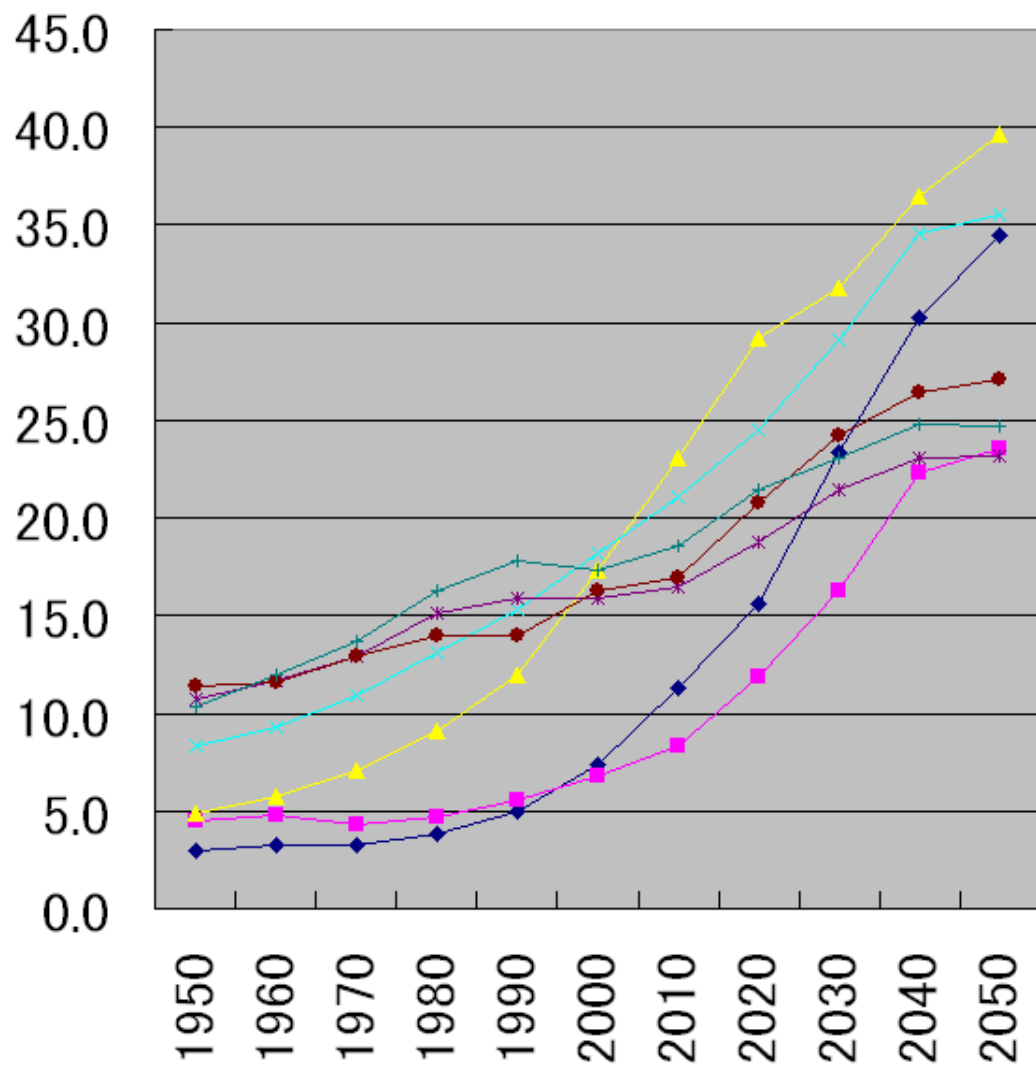


高齢化は止まる？ 昭和50年代の理解

第1-1-5図 主要国の老年人口の総人口に占める割合の推移



資料 年金制度基本構想懇談会「報告(54.4)」参考資料より引用。



- ◆ (25) 韓国
- (1) 中国
- ▲ (10) 日本a
- × (22) イタリア
- * (21) イギリス
- (20) フランス
- + (84) スウェーデン

未来社会 関前村の例

「超高齢社会」の実態

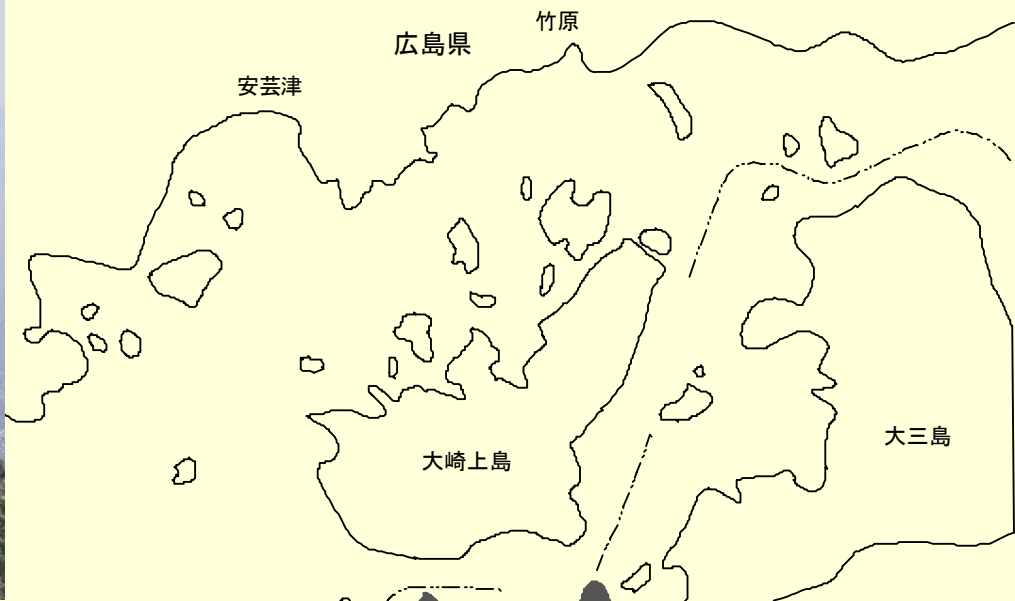
人口の約半数が高齢者の村で見られること
(2002年調査)

- 調査対象地域:
- 愛媛県越智郡関前村
- 岡村島・小大下島・大下島

	関前村全体	岡村島
人口	901人	670人
65歳以上人口	428人	276人
高齢化率	47.5%	41.2%

大原・井上・藤岡：地域通貨を媒介としたコミュニティづくり
と高齢者の地域生活、建築学会大会発表

梗概集 2003年, E-2分冊, pp.159-160



【事例11】 81歳 男性 妻 (77歳) と2人暮らし

戦後日本に戻り、みかんの専門技術を伝える技術者となる。愛媛県職員として当初は関前村に、最後の5年間は今治市に勤務。60歳で退職後は、御手洗と小学校付近にある自分のみかん畑を維持している。

子どもは5人おり、長女が堺、二女が大阪、三女が松山、四女が今治、長男が京都でそれぞれ暮らしている。三女、四女とは連休などに行き来があり、みかんの収穫に来ることもある。ほかに盆や暮れに帰ってくる。

村内の役としては、父から引き継いだ寺の世話役、PTAの役、農協のみかん部部長などがある。みかんが趣味のようなもので、サークル活動には入っていない。

妻が島外出身者なので島内の親戚は少ない。部落内では葬式の時の手伝い程度で、特別親しい付き合いはない。だんだんは昔のころと同じだと考えている。チップの交換はないが、道で見かけた人を車に乗せることは日常的に行っている。

	部落内	島内	島外
親しい	●	□□□	●●●●
↑		□□□●	●●●●
↓		□□□●	●●●●
挨拶	○ ○ ○ ●	○ ○ ○ ●	● ● ● ●
	○ ○ ○	□ ● ● ●	● ● ● ●

●親戚 ○親戚以外 うち、だんだん会員は口で囲む

Fさん (だんだん)
この夫と兄弟のように過ごした。車で大長へ送る。チップ交換の代わりに大長の喫茶店でご馳走。桜の木の毛虫駆除も。

部落内
葬式の時の手伝い
特段仲良い人はいない。

Eさん
代々みかんちぎりに来てくれる。昔は嫁、今は娘が。

Dさん
魚を買う

Cさん
この妹を仲立ちした

Bさん
魚を買う

Gさん (だんだん)
桜の木の毛虫駆除。

親戚の造り酒屋の酒を置いてもらっていた関係で、以前は利用していた。

Hさん (だんだん)
粗大ゴミを車に積み、仕事のついでに出す。

Qさん (親戚)
法事。

Pさん (親戚)
弟。あがりこむ。

[今治]
買い物では行かない。
以前は月に3~4回、眼科、県事務所、農協、果樹の園芸組合の仕事で。
現在は月に1回、眼科と娘のところ。

Kさん (だんだん)
みかん箱をキャリアで運ぶ。顔と名前は知っていたが、付き合いはなかった。

縁類。法事するとき。

Mさん (親戚)
孫の子。あがりこむ。たまに行く。

今治とこの2軒を順々に。つきあいで。

Nさん (親戚)
孫の子。あがりこむ。たまに行く。

scale:1/6000

←宮浦 宮側→

図 5-3 事例 11 の地域生活

地域社会・物理的環境全体を施設のように使いこなしていく方法：単体の建物にはとられない生活

地域通貨によるサポート

大原・井上・藤岡：地域通貨を媒介としたコミュニティづくりと高齢者の地域生活

建築学会大会発表梗概集 2003年, E-2分冊, pp.159-160

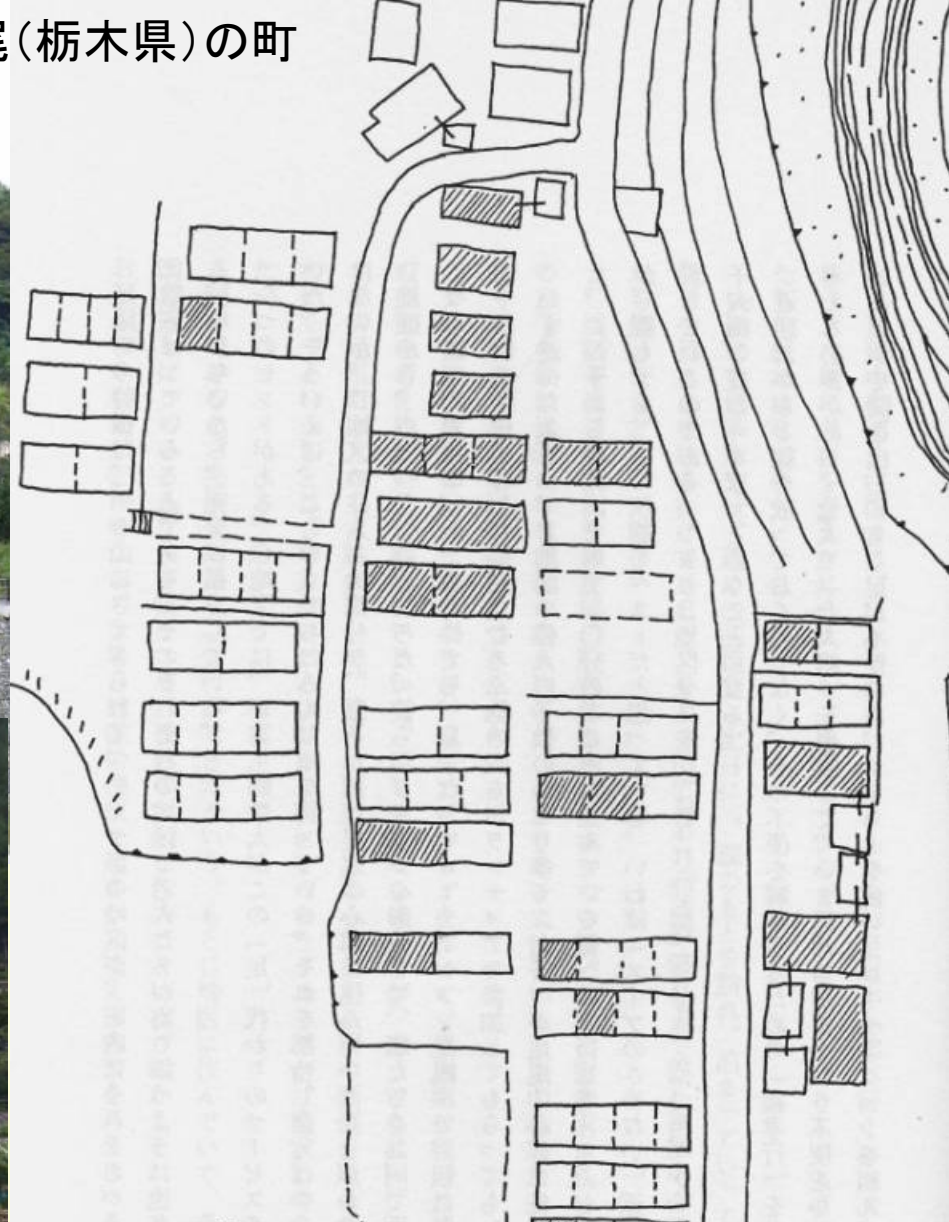
地域通貨「だんだん」活動概要

団体名	グループだんだん
活動範囲	関前村岡村
目的	「安心して老いる島」をモットーに、住民がお互いに「できるところを」「できるひと」が「できるとき」にしながら、支え合いの仕組みをつくっていくこと。
計測基準	30分のサービスを1点と換算
方法	会員になると20枚のチップが渡され、サービス30分につき1枚のチップと交換する。チップは年度ごとにゼロに戻す。
サービスの内容	日常生活で困っていることなら何でもよい。送迎、買い物、運搬、子守りなど30種以上。
会費	年会費500円。
会員数	70人（平成14年7月現在）

路上で交流する人々



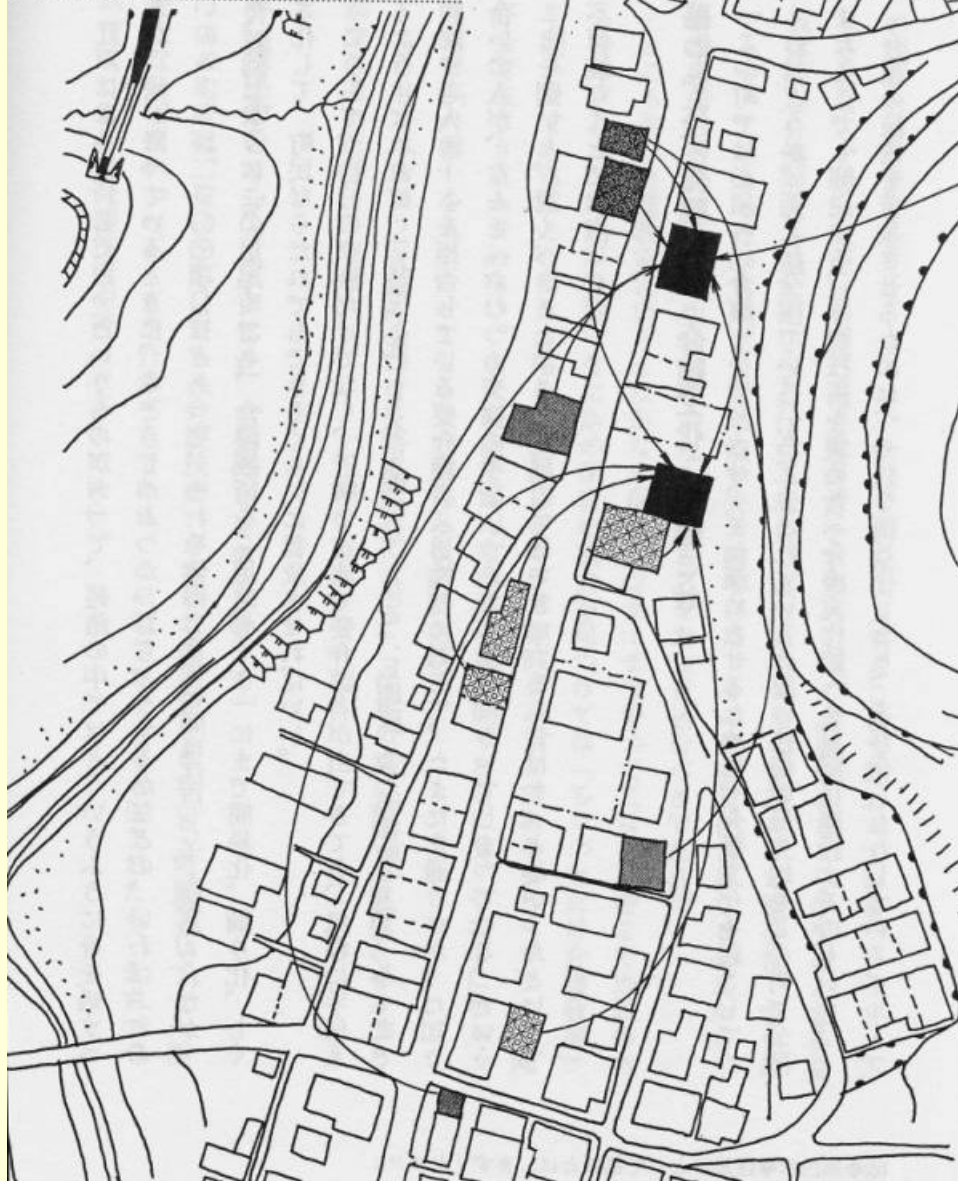
足尾(栃木県)の町



D地区
ここが典型的な「長屋」。斜線の家以外は「空き家」。このうちの七軒の家の息子がB地区などの中心街に住んでいて、毎週のように親の様子を見にくる。ここは中心街からみたら「はなれ」に相当する。

E地区

この地区の「要介護者」のいる家は二軒（黒く塗り潰してある家）。ここに地区内のどの人が関わっているかを、線で示してある（主要な資源のみ）。たまたま通り掛かった人が、おむつ交換の手伝いもしてしまう、という！昔はそれが当たり前のように行われていた、と地元のリーダーが言っていた。



B地区

住民は地区全体を一つの「老人ホーム」とみなしているようにもみえる。彼らはまず朝「廊下」（真ん中を上下に走る道路）を通って「診療室」（下の病院）に行き、午前中はそこで「憩い」をし、昼すぎになるとまた「廊下」を上がって、それぞれの行き慣れた「娯楽室」（老人のいる家）に散っていく。図のようにそんな「娯楽室」が、うまい具合に適当な間隔をおいて存在している。住民は自分たちの必要とした「施設」を自分たちでちゃんと拽し当てているのだ。



図出典

木原孝久：住民主体の「福祉の町づくり」の手法, 筒井書房1994

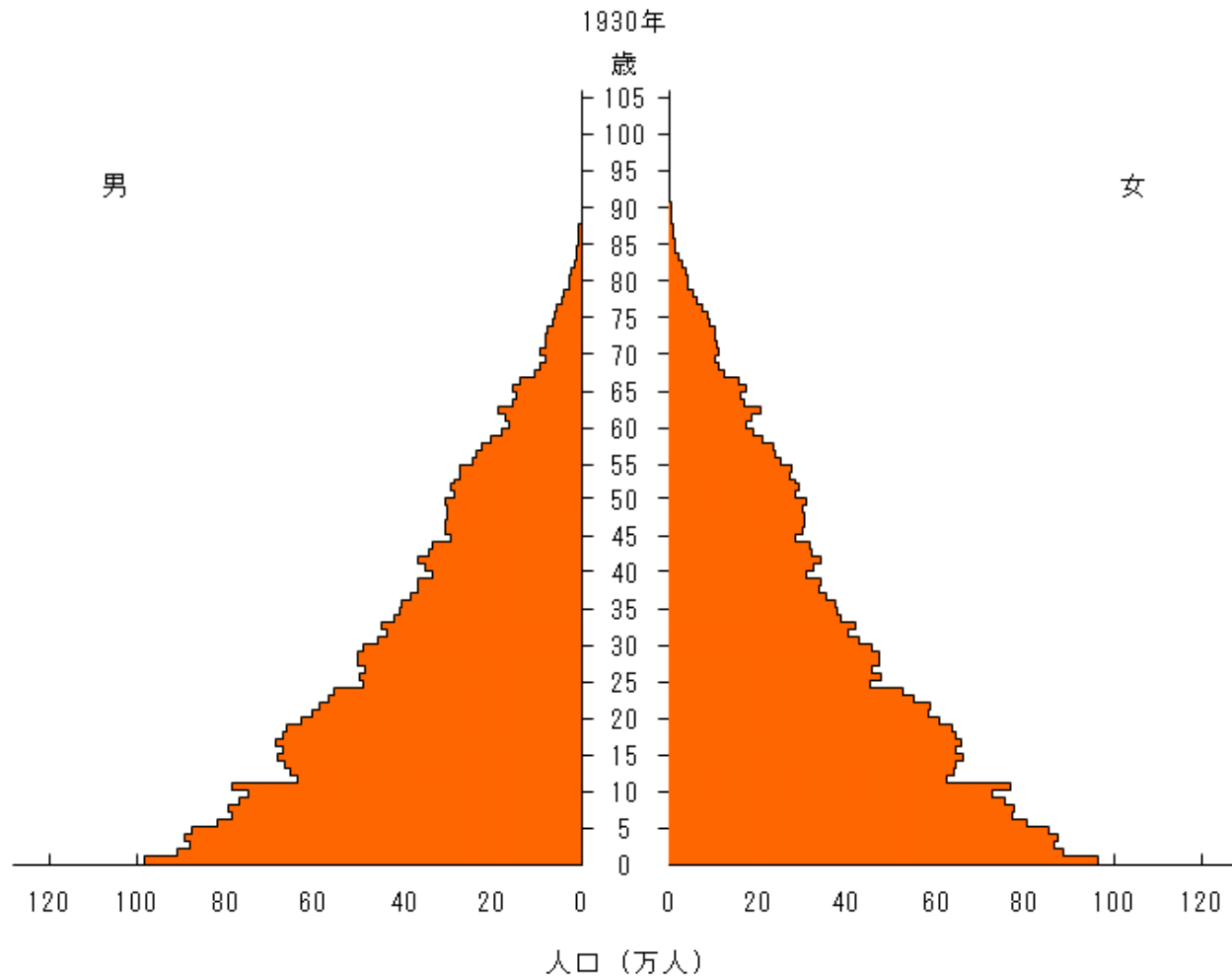
まちと施設が一体になる

- まち施設
- 地域への分散化

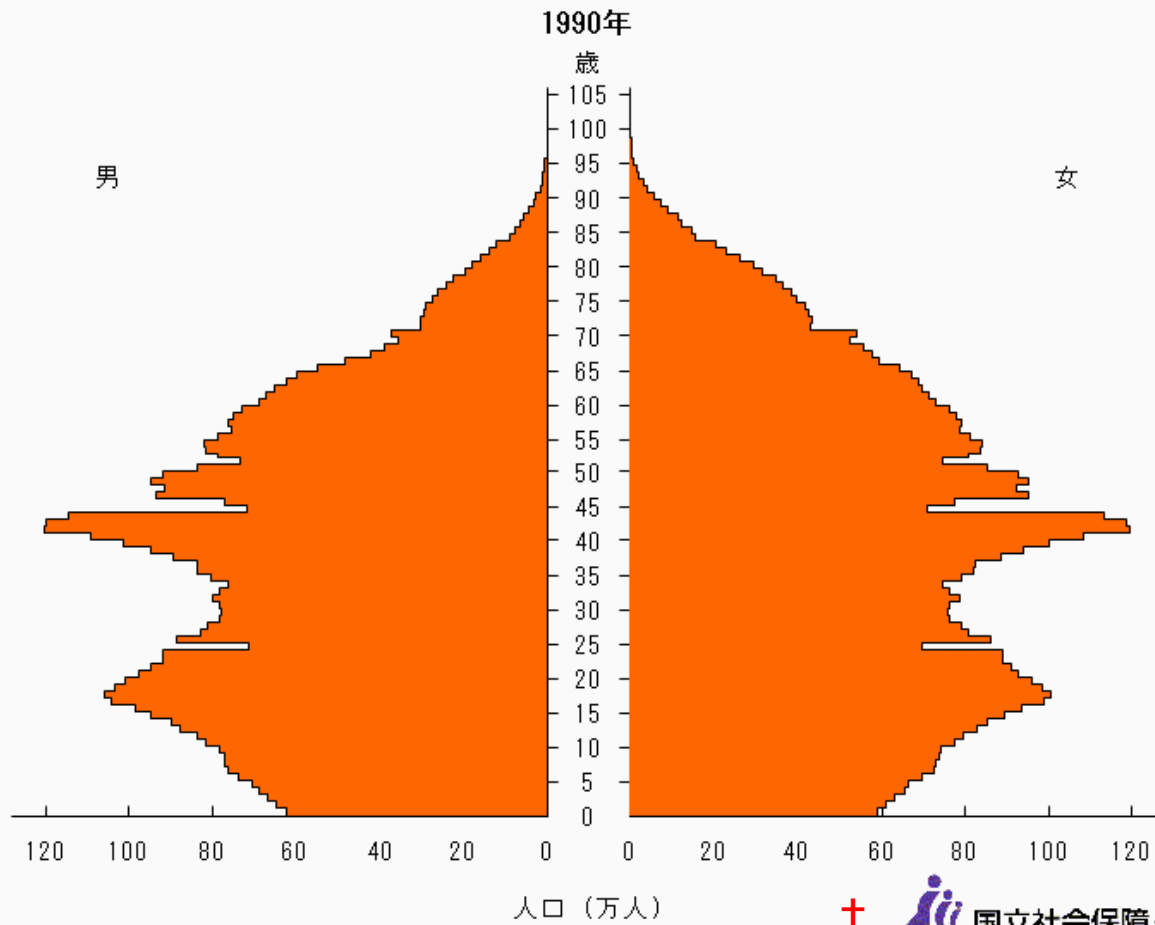
- 脱「施設」の
学校、病院、美術館、
博物館、劇場、etc



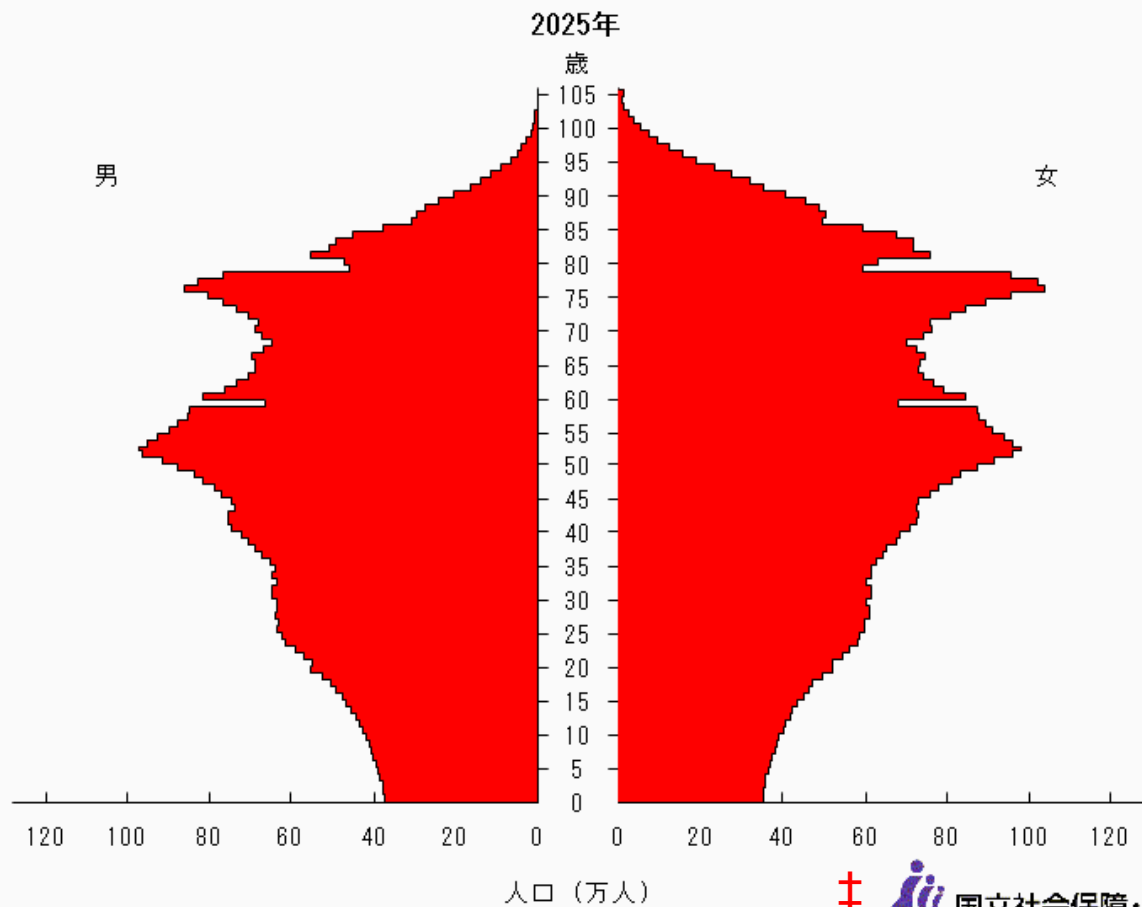
1930



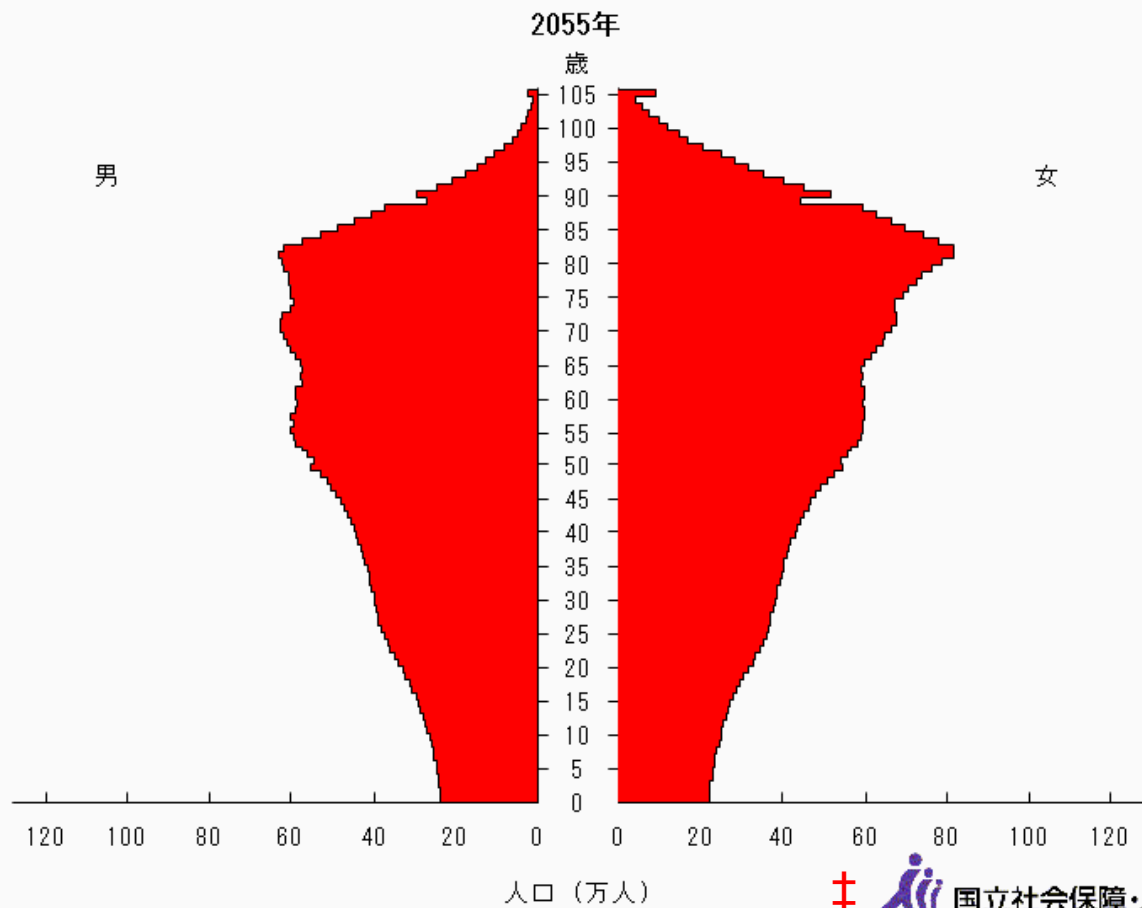
1990

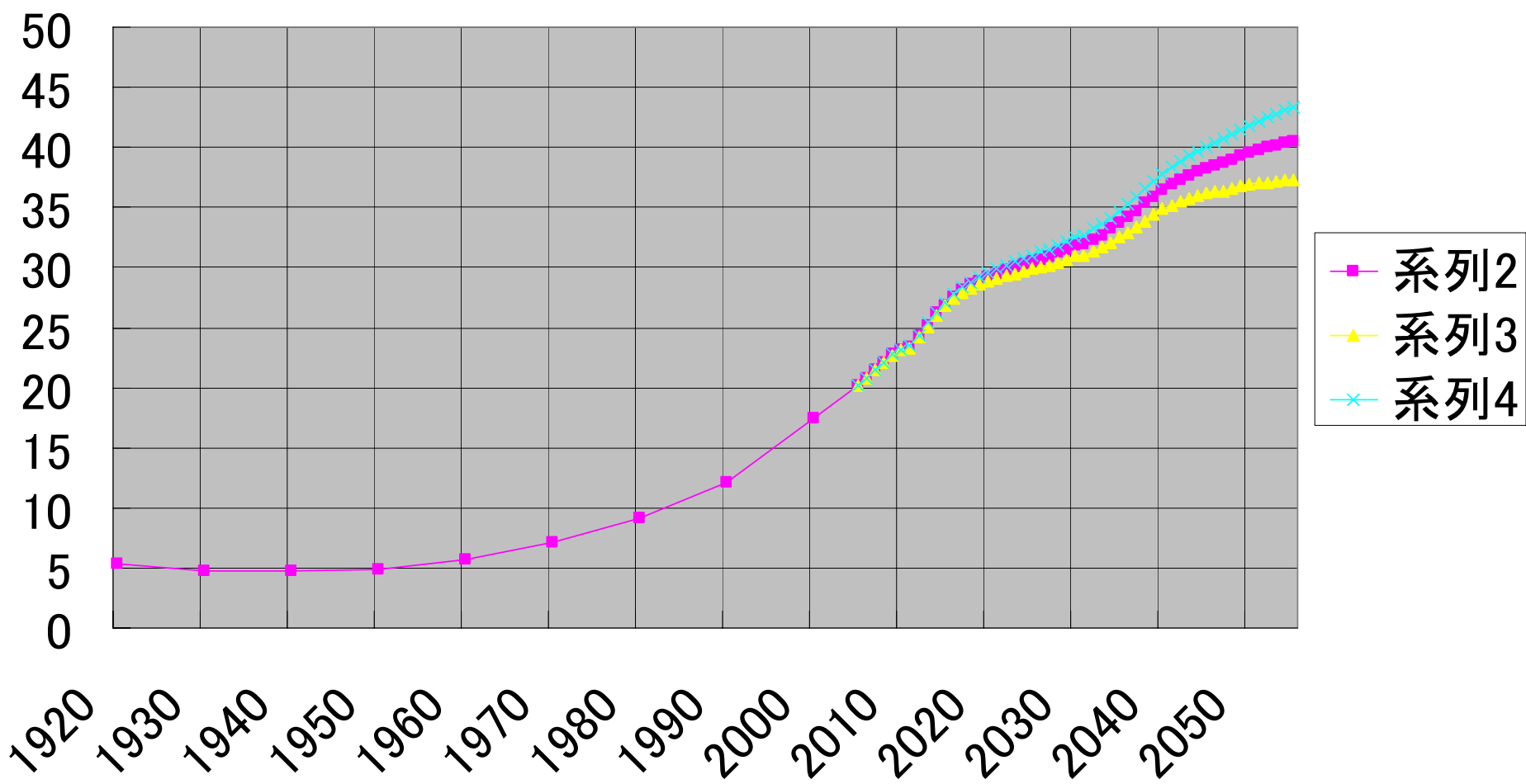


2025



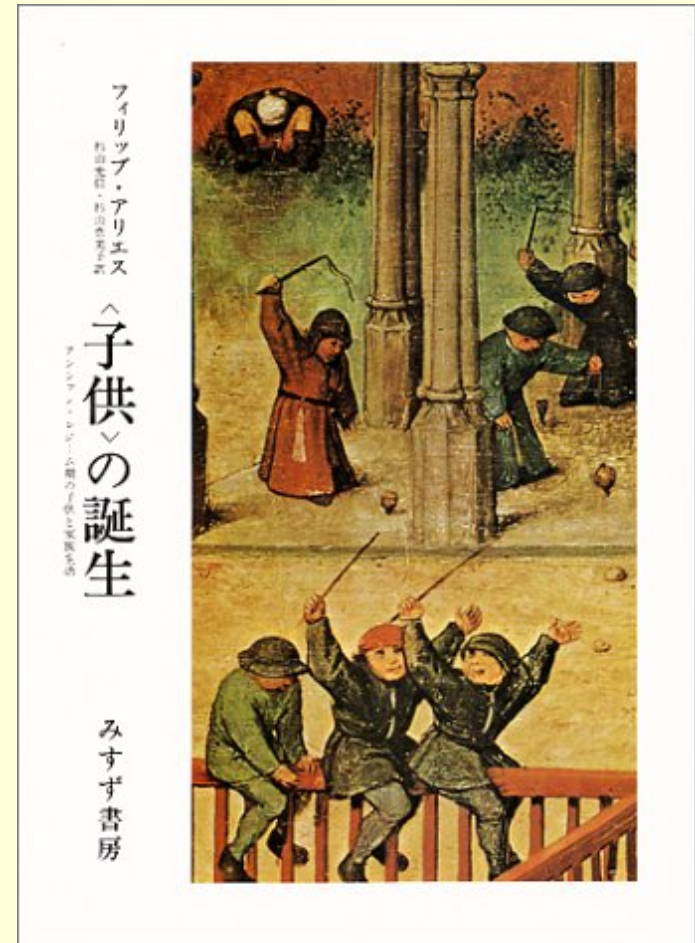
2055





<老人>の誕生(と死)

- 誕生：
「その他の者たち」
から
「存在するカテゴリーとして
のマイノリティ」
へ
- 死：マイノリティの不在



まち全体で住むことについて

- 宅老所 制度設計の有効性への疑問
- 弱さの力 悩む力 降りていく生き方
- 小規模スケール 住宅から／への転用
- 地域分散・アウトソーシング 公民の協働、逆デイサービス
- ノン・フォーマルなケアシステムへ

転用の知恵

- 託老所あんき（愛媛県） 古民家改造
- 地域に溶け込むケア拠点
発展
デイ→お泊まり→グループホーム

地域にあるものを仕方なく使う： 持たざる者の知恵



佐久市恵仁会 銀行転用のデイサービスセンター



御代田町 きくちゃん家



佐久市 恵仁会

GHあおぞら・そよかぜ

黒崎東宝 げんき倶楽部



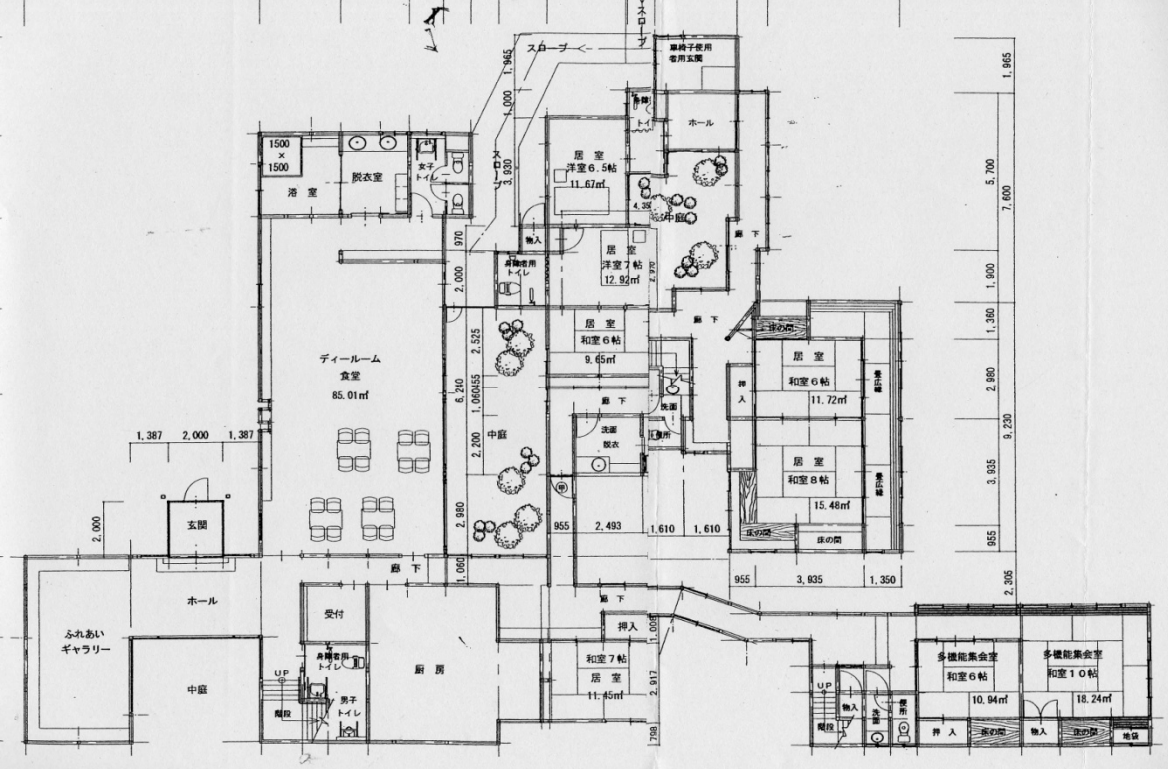






ホテルを転用した病院

ちくぜん 高級料亭からの転用

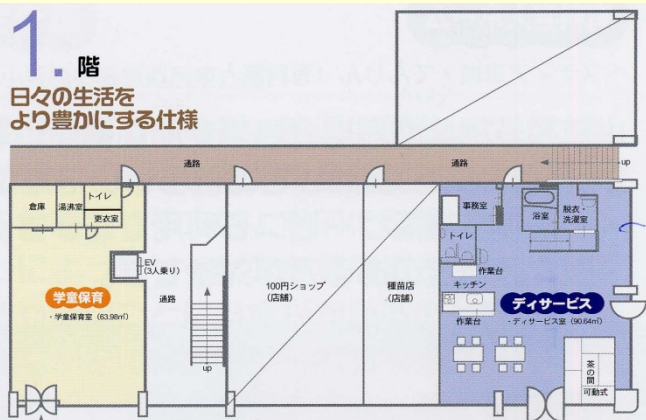


† いこいの家 ちくぜん



1. 階

日々の生活を
より豊かにする仕様



2. 階

もしもの
ための安心設備



「ヘスティア華城」
小規模多機能＋
有料老人ホーム

† ヘスティア華城



小規模多機能施設 上総(京都) : 診療所付き住宅からの転用







共に自立する：共立

- ひとりではなく、グループ居住による力

最近のプロジェクトから

- 2つのプロジェクトの紹介

- 1) 方南町 小規模多機能高齢者施設
徹底した分棟式 まちづくりと一体化
ワークショップを活用した計画プロセス
- 2) 特養のそばにある「優しい時間」
たばこ屋さんのノンフォーマルな展開

方南町project: 分棟（住宅スケールを 保った小規模多機能施設）





方南2丁目高齢者施設を契機とした まちづくりワークショップ



第1回ワークショップ



第1回ワークショップ

自分らしく
安心して暮らせる

グループホーム

メンバー

・中村
・三橋
・岩城

・山岸
・田村
・瀧野

・青柳
・澤根
・

1班

安心

医師と看護師を
常駐させる

病気になっても
安心して
生活できる

買い物等には
介添えがついて
行けるように

病気になった
時の事は
どうなるか

筋力keepの為の
運動を
させて欲しい

風呂の時間は
どうなるので
しょうか

地域の参加は
あるのか
ボランティア

自立が出来なく
なっても
出て行くと云わない
施設であって欲しい

あまり大勢の
グループでなく
少ないほうが
打ちとけると思う

庭があって欲しい

家族や友人と
気軽に会える

閉門・開門は
ゆったりとした
時間に

自分らしく
(自主性を重んじた)
生活

一生 生活できる

ターミナルケアー

自立が大前提
であるが
入所後病気になっ
た場合
特養or他の施設に
転所できる

認知症で
ない人向けの
GHも欲しい

善福寺公園や
神田川公園に
皆でアクセス
出来ると良い
(他の公園でも可)

動物と一緒に
生活できる

親、兄弟、親類が
いつでも来れる...

家族や友人が
自由に遊びに
来たり
泊まっていける

食事をしたく
ない時はせず
趣味のことが
できる

食事時間は
何回かに分けて
選択できるように

ペットと一緒に
生活できる

仕事がある
(ex. だがしや)

旅行にいける

持ち込める道具は
どのくらいか

騒がしい

男女の比率とか
仕事の違いは
どうなるのか

認知の度合いは
どうなるのか

誰でも利用できる
低料金

経済面

入所費用は
年金内で
処理できる
範囲におさめる

自分らしく

自分らしく
(自主性を重んじた)
生活

食事時間は
何回かに分けて
選択できるように

食事をしたく
ない時はせず
趣味のことが
できる

家族や友人が
自由に遊びに
来たり
泊まっていける

親、兄弟、親類が
いつでも来れる...

動物と一緒に
生活できる

ペットと一緒に
生活できる

仕事がある
(ex. だがしや)

旅行にいける

持ち込める道具は
どのくらいか

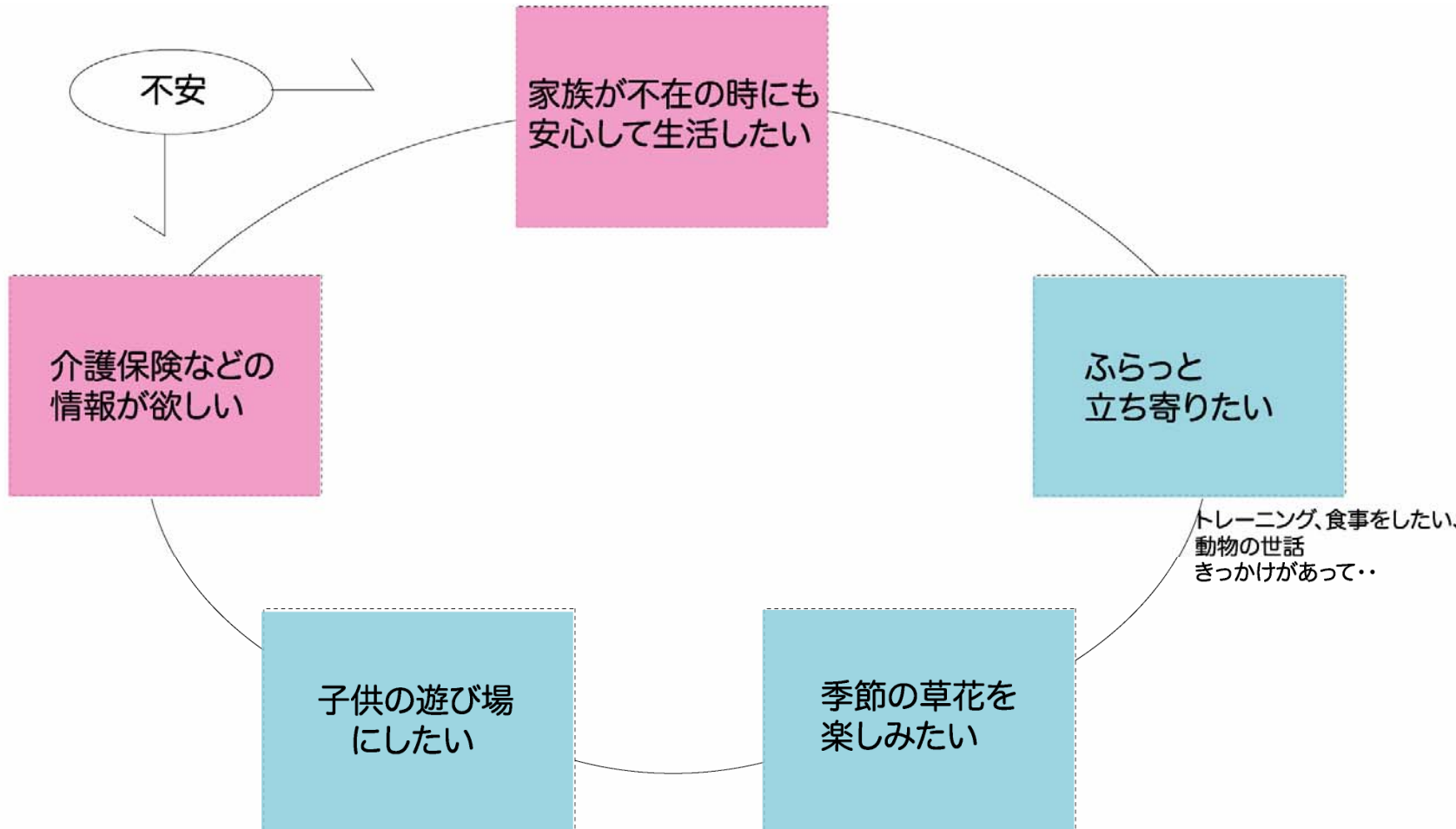
地域のよりどころ

メンバー

平山
桔梗
中島

広川
片野
宮島

2班



第2回ワークショップ

「施設の使い方について考えよう」

6月25日(土) 泉南中学校



〈プログラム〉

- ・施設の概要に関する説明
- ・地域交流スペースなどの使い方と配置について
ー平面図を使ったデザインゲームー
- ・外部空間の使い方とデザインについて
ー起こし絵を使ったデザインゲームー

第2回ワークショップ

地域交流スペースの使い方

グループ名

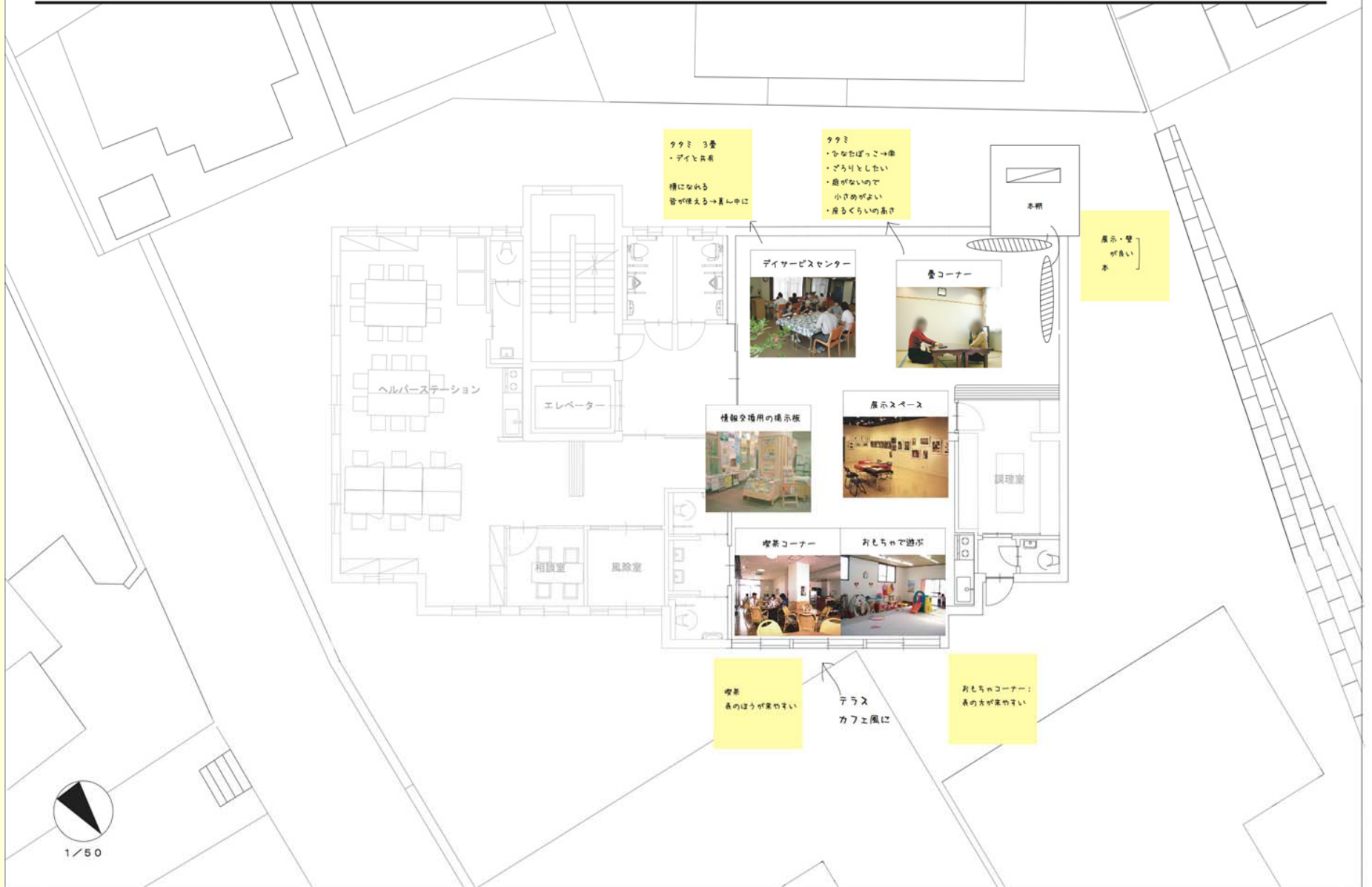
みどり

メンバー

菅野
石崎

佐藤
加藤

平井
百瀬



第3回ワークショップ

「周りの地域との関係について考えよう」

7月2日(土) 泉南中学校

〈プログラム〉

- 買い物マップの作成
ーグループホームの入居者が昼食の買い物に行く場合ー
- 散歩マップ(ぐるっと方南マップ)の作成
ー皆が楽しめる方南町周辺の散歩コースを考えるー



第2回ワークショップ



単なる通道
ではなく
目玉スポット

実例

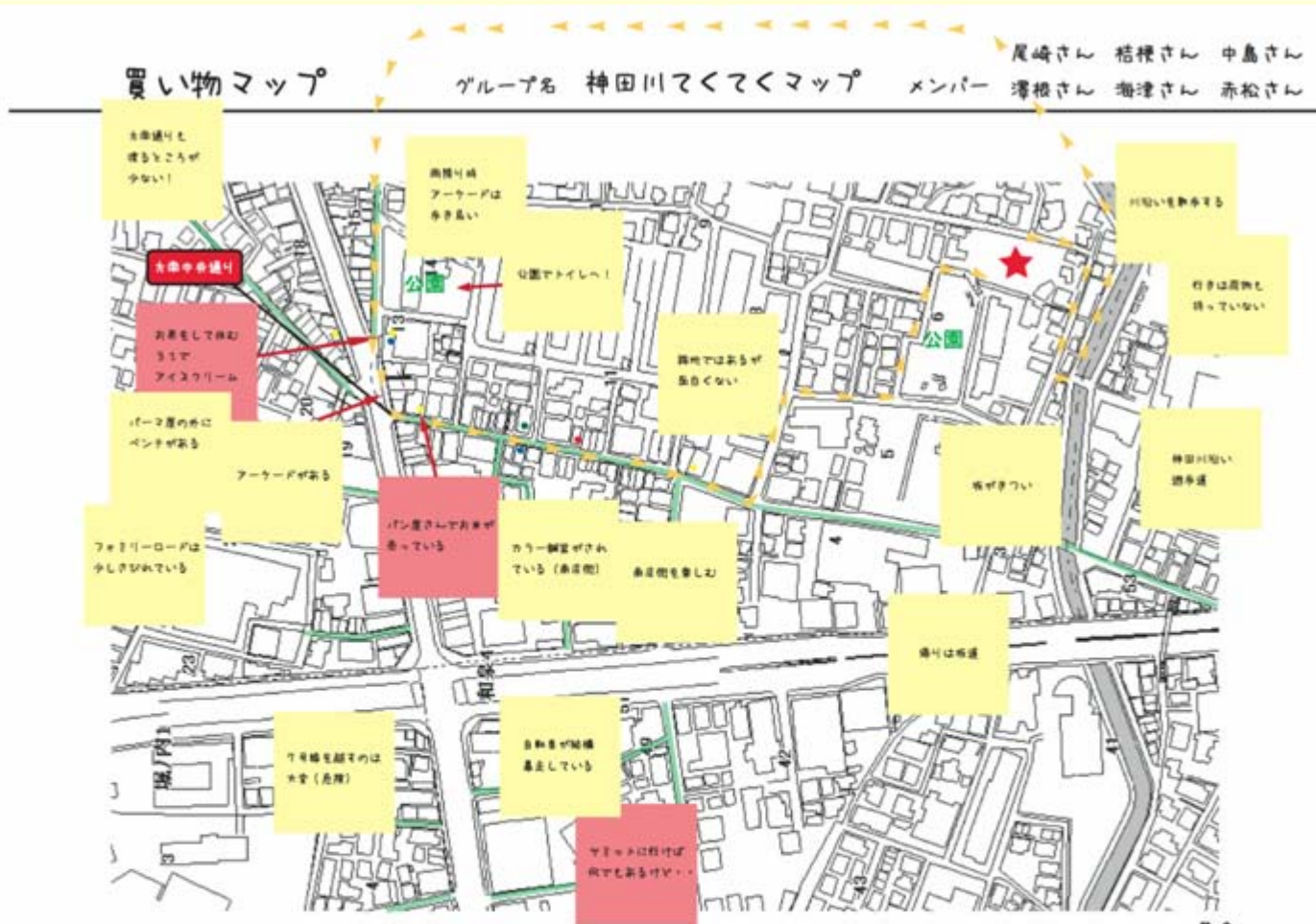
烏龍茶

提案
提案
提案

第3回ワークショップ



まちと一体的に計画



じゃこを揚げたの味噌チャーハン
おかげのこまごまのスイーツ

- じゃこ
- 味噌
- 揚げた
- チャーハン
- こまごま
- スイーツ

お菓子

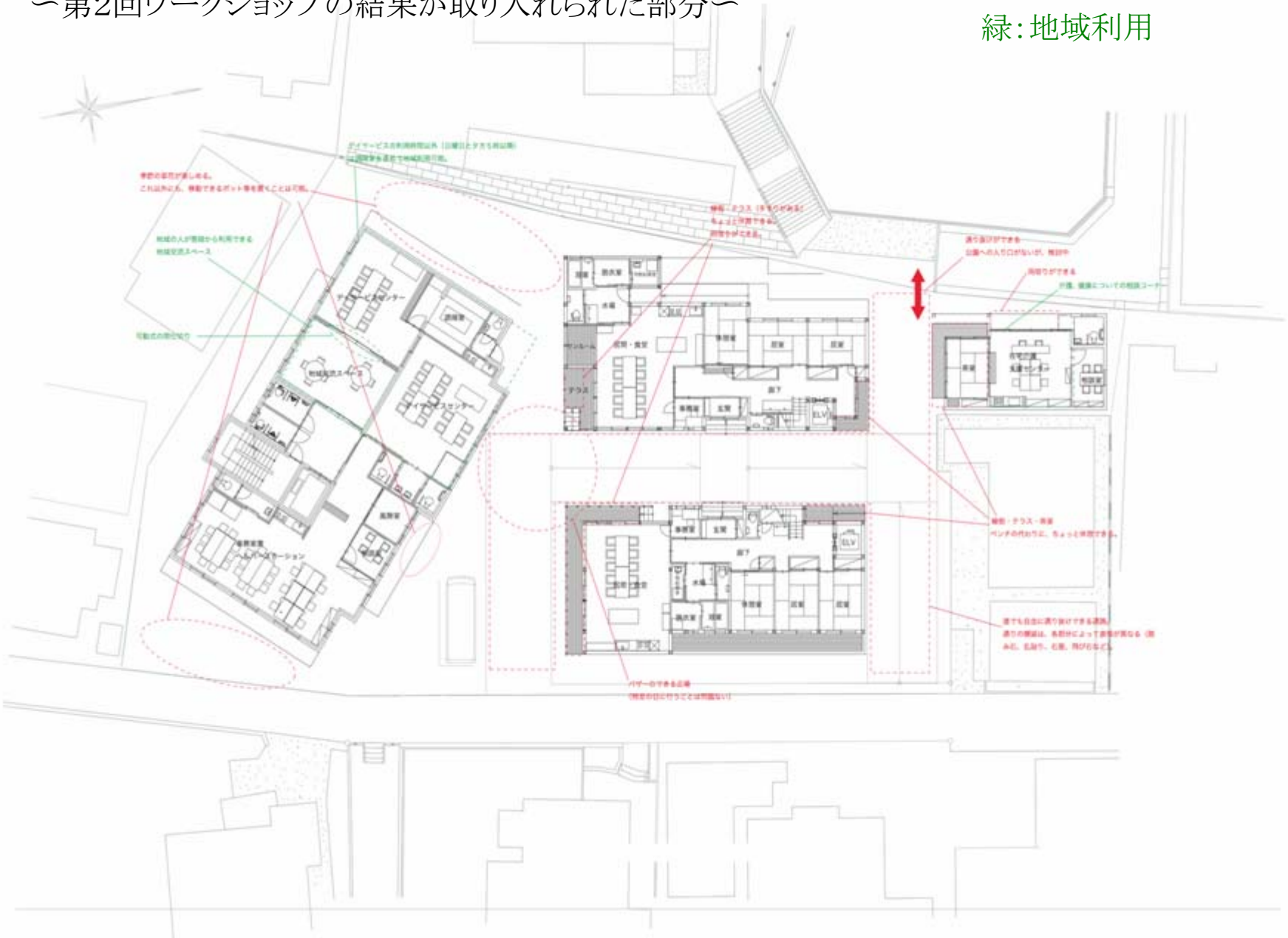
70m
15分以内の距離で1時間以内の移動

計画中の施設

～第2回ワークショップの結果が取り入れられた部分～

赤:外部空間

緑:地域利用







建築後の課題：
息づくような彩りを加える

緑化、路地づくりワークショップ、
掲示板作り、等



† 図出典・設計：類設計室

事後ワークショップ： ペットボトルのプランター で花一杯作戦（第1回）



2回目には200個作成



作成したフラワーポットを地域に配りに



足立区のたばこ屋プロジェクト

インフォーマルな存在からの転換





きっかけ

時折来る施設のお年寄りがゆっくり過ごせる場にならないか・・・？

施設の居住者から依頼を受け、食事を提供したところ、ゆっくり時間をかけて食事をする事ができた。

8月 実測

打ち合わせ

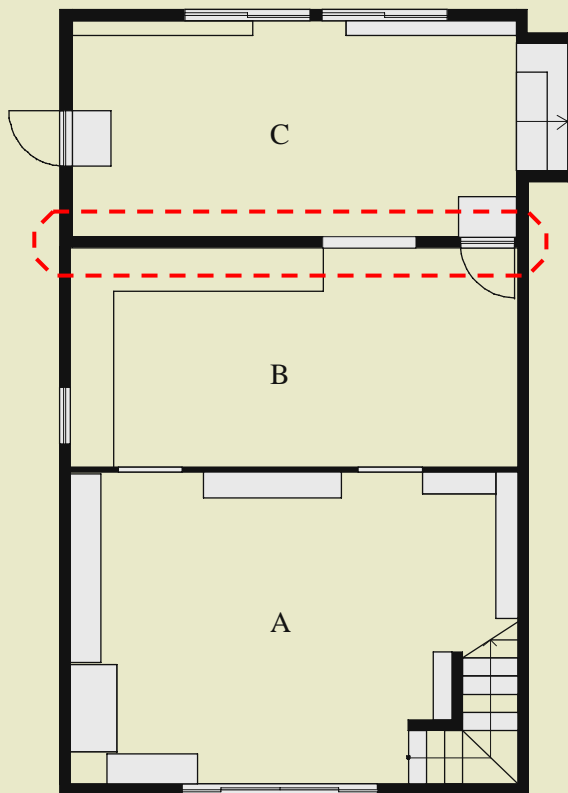
9月 プラン検討



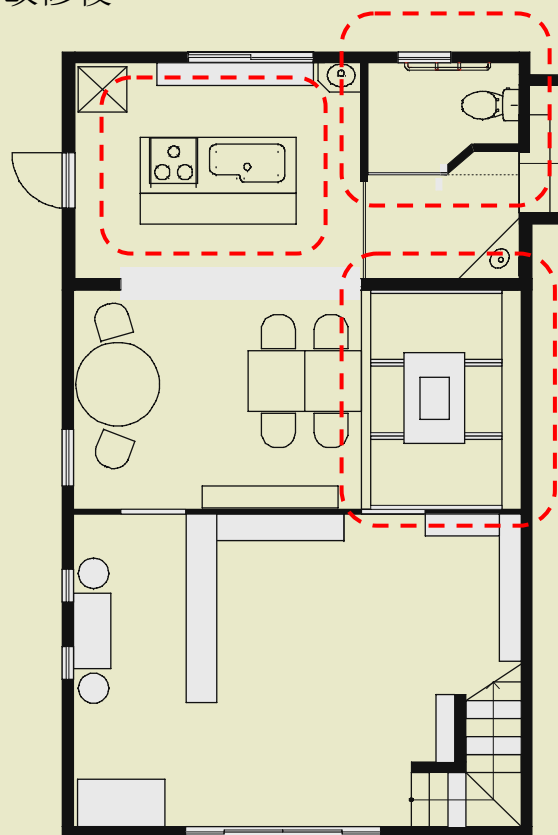
10月 着工

11月 竣工／開設

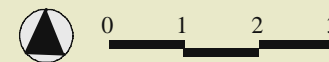
改修前



改修後



問題点：車椅子用トイレがない
狭い、段差がある。





特養とまちとの接点
縁側のように気軽に立ち寄ることができる場所

Nine dots puzzle 4本の直線で一筆書き

外に視点を置く思考

